

新武藏野クリーンセンター（仮称）  
生活環境影響調査 事後調査報告書  
(供用後)

概 要 版

令和4年3月  
武 藏 野 市  
NIKKEN



## 目 次

1. 事業者の氏名及び住所	1
1－1 事業者の氏名及び住所	1
2. 事後調査の目的	2
2－1 事後調査の目的	2
2－2 事後調査の手順	2
3. 事後調査の方法	3
3－1 事後調査の項目	3
3－2 事後調査の地点	3
3－3 事後調査の期間	8
4. 予測・評価結果と事後調査結果の比較	10
4－1 大気質	10
4－2 悪臭	30
4－3 騒音・振動	31
4－4 低周波音	36
4－5 地盤	37
4－6 水循環	38
4－7 日影	39
4－8 景観	42
4－9 廃棄物等	50
4－10 温室効果ガス	51
4－11 地域社会	52
4－12 緑の量・質	55
5. 事後調査の実施者及び受託者の氏名及び住所	57
5－1 事後調査の実施者の氏名及び住所	57
5－2 事後調査の受託者の氏名及び住所	57



# 1

## 事業者の氏名及び住所

### 1-1 事業者の氏名及び住所

名 称：武蔵野市

代表者の氏名：武蔵野市長 松下 玲子

住 所：東京都武蔵野市緑町二丁目2番28号

## 2

## 事後調査の目的

### 2-1 事後調査の目的

事後調査は、生活環境影響調査を行った内容に対して、工事中及び供用後の環境等の状況を調査し、予測・評価の結果を検証するとともに、環境保全措置等の適正な実施状況等を確認することを目的として行うものである。

今回は、事後調査計画書に基づき武藏野市が実施する調査のうち、供用後の施設の稼働、ごみ収集車両等の走行及び施設の存在による影響（大気質、悪臭、騒音・振動、低周波音、地盤、水循環、日影、景観、廃棄物等、温室効果ガス、地域社会、緑の量・質）の調査を行ったものである

### 2-2 事後調査の手順

事後調査計画書に基づき、以下の手順で事後調査等を実施し、その結果について、ホームページ等で公表する。

#### ①事後調査の実施

工事中及び供用後の環境等の状況を確認するために、事後調査計画書に基づき、事後調査を実施する。

#### ②予測・評価結果との検証等

予測・評価結果と事後調査結果を比較検討し、両者が著しく異なる場合は、その原因を究明する。

#### ③追加措置の検討等

事後調査結果が予測・評価結果と著しく異なり、環境影響の程度が大きいと判断される場合には、②で究明した原因を取り除くべく追加措置を検討する。  
追加措置を実施する場合は、必要に応じ環境影響の継続調査を実施する。

### 3

## 事後調査の方法

### 3-1 事後調査の項目

事後調査計画書に基づき、以下の事後調査の項目を選定した。

調査事項は、環境の状況、対象事業の実施状況、環境保全措置の実施状況とした。

- |                 |                                                                               |
|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 施設の稼働による影響      | : 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、二酸化硫黄、塩化水素、ダイオキシン類、粉じん、その他有害物質）、悪臭、騒音・振動、低周波音、廃棄物等、温室効果ガス |
| ごみ収集車両等の走行による影響 | : 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）、騒音・振動、地域社会                                               |
| 施設の存在による影響      | : 地盤、水循環、日影、景観、緑の量・質                                                          |

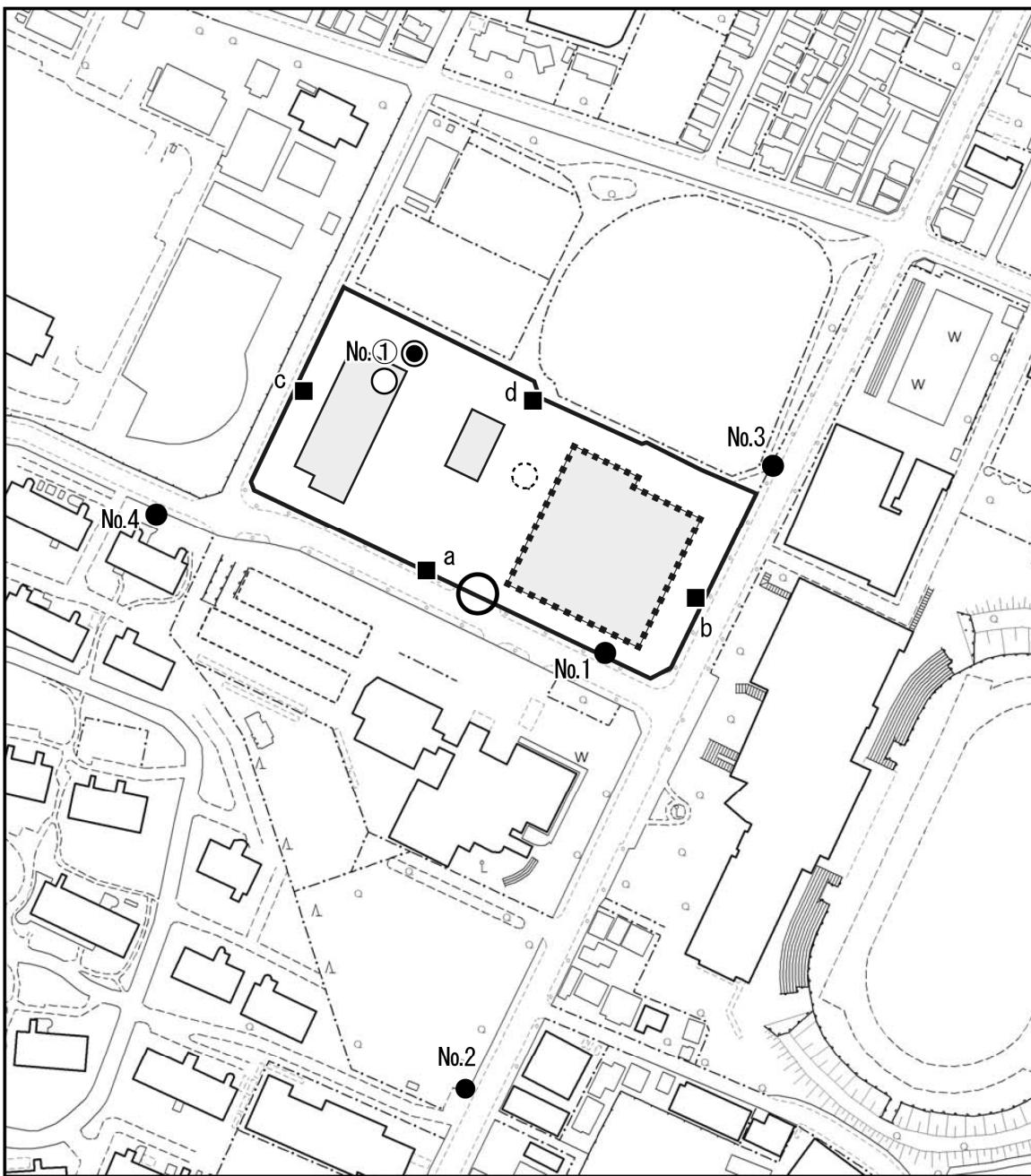
### 3-2 事後調査の地点

表 事後調査の地点

項目	要因	調査事項	調査地点
大気質	施設の稼働	●一般環境大気質 ・二酸化窒素、浮遊粒子状物質、二酸化硫黄、ダイオキシン類、塩化水素、その他有害物質（水銀、ベンゼン、アセトン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、トルエン）	No.①～No.③
		・ダイオキシン類、塩化水素、他の有害物質（水銀、ベンゼン、アセトン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、トルエン）	No.④
		●地上気象 ・風向、風速	No.①
		●排気口の排気濃度等 ・その他有害物質（水銀、ベンゼン、アセトン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、トルエン）、粉じん、排ガス量、排ガス吐出速度、排ガス温度	煙突排気口
		●煙突排ガス濃度等 ・窒素酸化物、ばいじん、硫黄酸化物、ダイオキシン類、塩化水素、その他有害物質（水銀）、排ガス量、排ガス吐出速度、排ガス温度	煙突排気口 (1号炉、2号炉、臭突)
	ごみ収集車両等の走行	●沿道環境大気質 ・二酸化窒素、浮遊粒子状物質	No.1～No.4
		●ごみ収集車両等の走行台数等 ・車種別、時間別台数、走行ルート	車両出入口

表 事後調査の地点

項目	要因	調査事項	調査地点
悪臭	施設の稼働	●臭気指数（濃度） ●発生源の臭気等 ・臭気指数（濃度） ・排ガス量、排ガス吐出速度、排ガス温度	地点 a～地点 d 1号炉、2号炉、臭突
騒音・振動	施設の稼働 ごみ収集車両等の走行	●騒音・振動 ●発生源の状況 ・屋内、屋外音源の種類、台数等	地点 a～地点 d 計画地内
		●道路交通騒音・振動 ●断面交通量（方向別、車種別、時間別）	No.1～No.4
		●ごみ収集車両等の走行台数等 ・車種別、時間別台数、走行ルート	車両出入口
低周波音	施設の稼働	●工場低周波音 ●発生源の低周波音等	地点 a～地点 d 調査対象とした設備機器 (計 15 台)
地盤	施設の存在	●地盤変形	地点 1～地点 6
水循環	施設の存在	●地下水位	No.②～No.③
日影	施設の存在	●冬至日における日影 ※竣工図に基づく時刻別日影図及び等時間日影図の作成	—
景観	施設の存在	●主要な眺望景観 ※写真撮影による	No.①～No.⑧、 参考 1～参考 6
廃棄物等	施設の稼働	●廃棄物の種類・量・処理状況 (施設稼働による) ※関係資料による	—
温室効果ガス	施設の稼働	●ごみ焼却及びエネルギー利用による温室効果ガス排出量及び削減量 ※関係資料による	—
地域社会	ごみ収集車両等の走行	●交通安全対策等の実施状況 ※現地確認（写真撮影）・関係資料による	ごみ収集車両の走行ルート上
緑の量・質	施設の存在	●緑の量・質の状況 ※関係資料・現地踏査による	計画地内



凡 例

■ : 計画地

● : 一般環境大気質  
調査地点 (No.①)

○ : 気象調査地点 (No.①)

○ : 煙突排ガス濃度等、  
発生源の臭気等調査地点  
(1・2号炉、臭突)

● : 沿道環境大気質、  
道路交通騒音・振動、  
断面交通量調査地点 (No.1~No.4)

■ : 悪臭、工場低周波音  
調査地点 (a~d)

○ : 出入交通量調査地点  
(車両出入口)

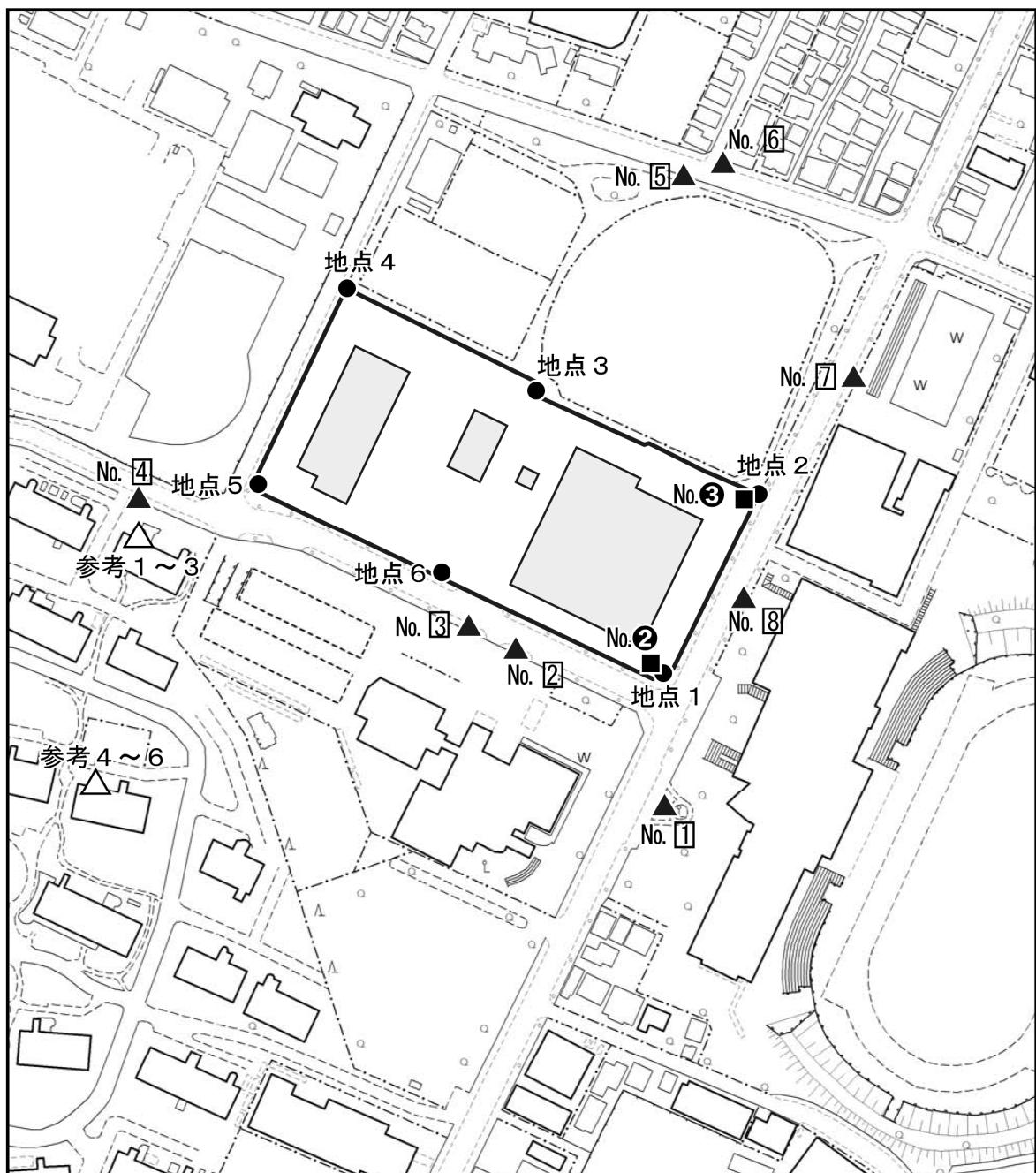
■ : 発生源の状況、  
発生源の低周波音調査地点

注) この地図は、東京都縮尺1/2,500地形図(平成27年度版)を使用している。



0 25 50 75m

図 事後調査の地点（大気質、悪臭、騒音・振動、低周波音）



#### 凡 例

□ : 計画地

● : 地盤変形調査地点 (地点 1 ~ 地点 6)

■ : 地下水位調査地点 (No. ② ~ No. ③)

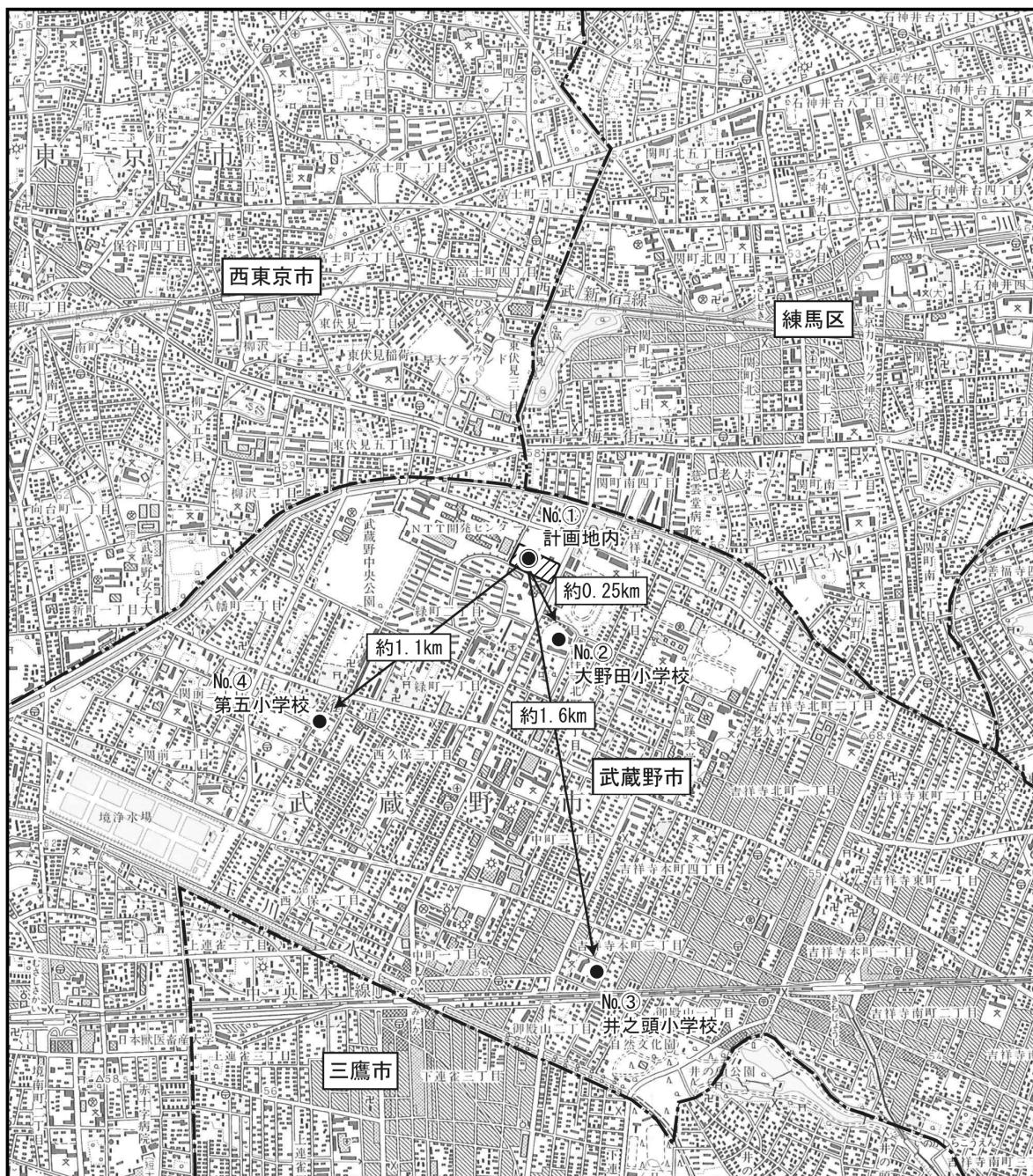
▲ : 主要な眺望景観調査地点 (No. ① ~ No. ⑧)

△ : 主要な眺望景観調査地点 (参考 1 ~ 参考 6)



0 25 50 75m

図 事後調査の地点（地盤、水循環、景観）



凡 例

- 計画地 ◎ 一般環境大気質、地上気象 (No.①)
- 市区界 ● 一般環境大気質 (No.②～No.④)

N

0 250 500 750m

注) この地図は、国土地理院発行の2万5,000分の1地形図(吉祥寺)を使用している。

図 事後調査の地点（大気質（一般環境大気質）、気象）

### 3-3 事後調査の期間

表 事後調査の期間

項目	要因	調査事項	調査期間
大気質	施設の稼働	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一般環境大気質           <ul style="list-style-type: none"> <li>・二酸化窒素、浮遊粒子状物質、二酸化硫黄、ダイオキシン類、塩化水素、その他有害物質（水銀、ベンゼン、アセトン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、トルエン）</li> <li>・ダイオキシン類、塩化水素、他の有害物質（水銀、ベンゼン、アセトン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、トルエン）</li> </ul> </li> <li>●地上気象           <ul style="list-style-type: none"> <li>・風向、風速</li> </ul> </li> <li>●排気口の排気濃度等           <ul style="list-style-type: none"> <li>・その他有害物質（水銀、ベンゼン、アセトン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、トルエン）、粉じん、排ガス量、排ガス吐出速度、排ガス温度</li> </ul> </li> <li>●煙突排ガス濃度等           <ul style="list-style-type: none"> <li>・窒素酸化物、ばいじん、硫黄酸化物、ダイオキシン類、塩化水素、その他有害物質（水銀）、排ガス量、排ガス吐出速度、排ガス温度</li> </ul> </li> </ul>	令和2年12月11日(金)から 7日間 (冬季の1週間)
	ごみ収集 車両等 の走行	<ul style="list-style-type: none"> <li>●沿道環境大気質           <ul style="list-style-type: none"> <li>・二酸化窒素、浮遊粒子状物質</li> </ul> </li> <li>●ごみ収集車両等の走行台数等           <ul style="list-style-type: none"> <li>・車種別、時間別台数、走行ルート</li> </ul> </li> </ul>	令和2年12月15日(火) (冬季の1日)
悪臭	施設の稼働	<ul style="list-style-type: none"> <li>●悪臭           <ul style="list-style-type: none"> <li>・臭気指数（濃度）</li> </ul> </li> <li>●発生源の臭気等           <ul style="list-style-type: none"> <li>・臭気指数（濃度）</li> <li>・排ガス量、排ガス吐出速度、排ガス温度</li> </ul> </li> </ul>	令和2年8月6日(木) (夏季の平日1回)
騒音・振動	施設の稼働	<ul style="list-style-type: none"> <li>●騒音・振動</li> <li>●発生源の状況           <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋内、屋外音源の種類、台数等</li> </ul> </li> </ul>	令和2年6月4日(木) 6時から24時間
	ごみ収集 車両等 の走行	<ul style="list-style-type: none"> <li>●道路交通騒音・振動</li> <li>●断面交通量（方向別、車種別、時間別）</li> <li>●ごみ収集車両等の走行台数等           <ul style="list-style-type: none"> <li>・車種別、時間別台数、走行ルート</li> </ul> </li> </ul>	令和2年12月16日(水) 6時から24時間 (冬季の平日1回)
低周波音	施設の稼働	<ul style="list-style-type: none"> <li>●工場低周波音</li> <li>●発生源の低周波音等</li> </ul>	令和2年12月14日(月) 7時から24時間 (冬季の平日1回)

**表 事後調査の期間**

項目	要因	調査事項	調査期間
地盤	施設の存在	●地盤変形	令和2年6月 ～令和3年5月 (毎月1回)
水循環	施設の存在	●地下水位	令和2年6月 ～令和3年6月(連続測定)
日影	施設の存在	●冬至日における日影 ※竣工図に基づく時刻別日影図及び等時間日影図 の作成	—
景観	施設の存在	●主要な眺望景観 ※写真撮影による	令和2年 8月 6日(木) 10月14日(水) 12月16日(水) 令和3年 3月23日(火) (四季4回)
廃棄物等	施設の稼働	●廃棄物の種類・量・処理状況 (施設稼働による) ※関係資料による	令和2年6月 ～令和3年5月
温室効果 ガス	施設の稼働	●ごみ焼却及びエネルギー利用による温室効果ガス排出量及び削減量 ※関係資料による	令和2年6月 ～令和3年5月
地域社会	ごみ収集 車両等 の走行	●交通安全対策等の実施状況 ※現地確認(写真撮影)・関係資料による	令和2年6月 ～令和3年5月
緑の量・質	施設の存在	●緑の量・質の状況 ※関係資料・現地踏査による	令和2年8月4日(火) から3日間 (夏季1回)

## 4

# 予測・評価結果と事後調査結果の比較

## 4-1 大気質

### 1. 施設の稼働

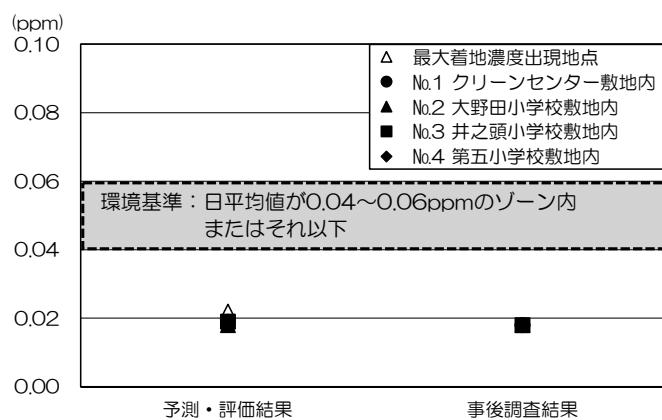
#### (1) 二酸化窒素

二酸化窒素の期間平均値はすべての地点において 0.018ppm であり、予測・評価結果（年平均値：0.01800684～0.02201822ppm）と同程度であった。また、二酸化窒素の日平均値の期間最大値は 0.031～0.033ppm であり、予測・評価結果（日平均値：0.034～0.040ppm）を下回っていた。

事後調査結果が予測・評価結果と同程度または下回った理由としては、バックグラウンド濃度が予測条件と比較して、同程度または下回っていたことが考えられる。なお、大気汚染物質によっては季節変動があることから、事後調査結果と平成 23 年に実施した冬季の現地調査結果を比較すると、事後調査結果は平成 23 年に実施した冬季の現地調査結果を下回っていた。また、計画地周辺の一般環境大気測定局で測定が行われている二酸化窒素の平成 23 年度及び過去 5 年間の推移をみると、減少傾向であり、バックグラウンド濃度の予測条件と事後調査結果の比較と同様の傾向がみられた。

表 二酸化窒素の予測・評価結果と事後調査結果の比較

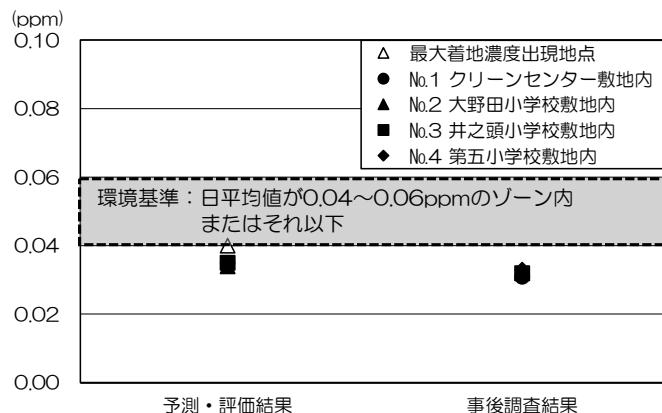
予測・調査地点	予測・評価結果 (ppm)		事後調査結果 (ppm)	
	年平均値	日平均値	期間平均値	日平均値の 期間最大値
最大着地濃度出現地点 (計画地北北西側 敷地境界約 540m)	0.02201822	0.040	-	-
No.1 クリーンセンター敷地内	-	-	0.018	0.031
No.2 大野田小学校敷地内	0.01800684	0.034	0.018	0.032
No.3 井之頭小学校敷地内	0.01900991	0.035	0.018	0.032
No.4 第五小学校敷地内	0.01900997	0.035	0.018	0.033



注1) 事後調査結果について、年平均値は「期間平均値」である。

注2) 「最大着地濃度出現地点」は予測・評価結果のみ、「No.1 クリーンセンター敷地内」は事後調査結果のみ示す。

図 二酸化窒素の予測・評価結果と事後調査結果の比較（年平均値）



注1) 事後調査結果について、日平均値は「日平均値の最大値」である。

注2) 「最大着地濃度出現地点」は予測・評価結果のみ、「No.1 クリーンセンター敷地内」は事後調査結果のみ示す。

**図 二酸化窒素の予測・評価結果と事後調査結果の比較（日平均値）**

**表 バックグラウンド濃度の予測条件と事後調査結果の比較**

項目	予測・調査地点	予測条件 <sup>注1)</sup>	事後調査結果 <sup>注2)</sup>	参考：平成23年の冬季調査結果 <sup>注3)</sup>
二酸化窒素 (ppm)	No.1 クリーンセンター敷地内	0.022	0.018	0.026
	No.2 大野田小学校敷地内	0.018	0.018	0.025
	No.3 井之頭小学校敷地内	0.019	0.018	0.026
	No.4 第五小学校敷地内	0.019	0.018	0.026

注1) 予測条件は、平成23年に実施した現地調査結果の四季平均値である。なお、予測では最大着地濃度出現地点のバックグラウンド濃度を「No.1 クリーンセンター敷地内」の四季平均値としていたことから、「No.1 クリーンセンター敷地内」についても比較を行った。

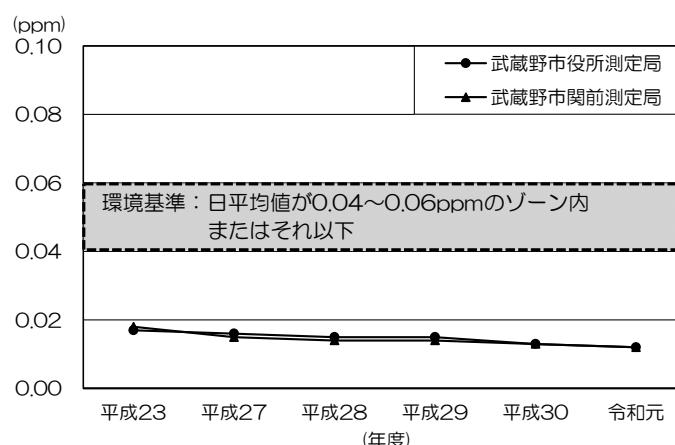
注2) 事後調査結果は、期間平均値である。

注3) 大気汚染物質によっては季節変動があることから、参考として平成23年に実施した冬季の現地調査結果の期間平均値を示す。

**表 計画地周辺の一般環境測定局の二酸化窒素の推移**

項目	測定局	年 度					
		平成23	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元
二酸化窒素 (ppm)	武藏野市役所 測定局	0.017	0.016	0.015	0.015	0.013	0.012
	武藏野市閑前 測定局	0.018	0.015	0.014	0.014	0.013	0.012

注) 各年度の年平均値の値を示す。



**図 計画地周辺の一般環境測定局の二酸化窒素の推移**

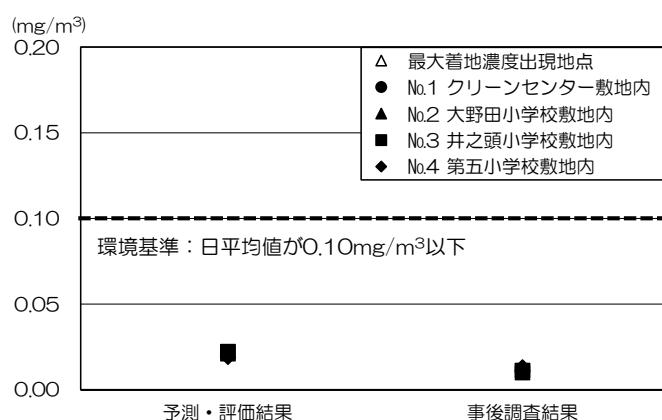
## (2) 浮遊粒子状物質

浮遊粒子状物質の期間平均値は  $0.010\sim0.013\text{mg}/\text{m}^3$  であり、予測・評価結果（年平均値： $0.01900473\sim0.02200471\text{mg}/\text{m}^3$ ）を下回っていた。また、浮遊粒子状物質の日平均値の期間最大値は  $0.022\sim0.028\text{mg}/\text{m}^3$  であり、予測・評価結果（日平均値： $0.045\sim0.050\text{mg}/\text{m}^3$ ）を下回っていた。

事後調査結果が予測・評価結果を下回った理由としては、バックグラウンド濃度が予測条件と比較して、下回っていたことが考えられる。なお、大気汚染物質によっては季節変動があることから、事後調査結果と平成 23 年に実施した冬季の現地調査結果を比較すると、概ね同程度であった。また、計画地周辺の一般環境大気測定局で測定が行われている浮遊粒子状物質の平成 23 年度及び過去 5 年間の推移をみると、横ばいであることから、バックグラウンド濃度が予測条件を下回ったのは、季節変動による影響が考えられる。

表 浮遊粒子状物質の予測・評価結果と事後調査結果の比較

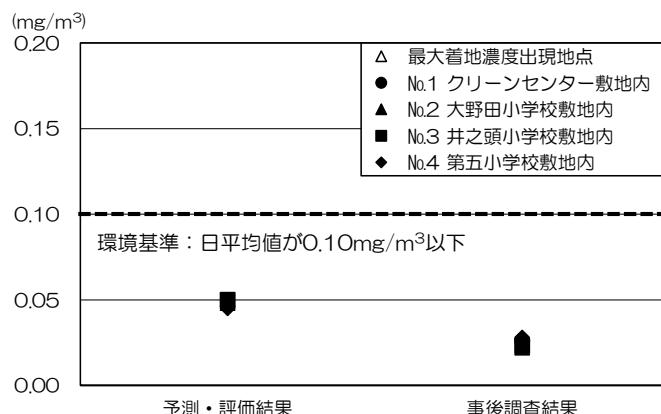
予測・調査地点	予測・評価結果 ( $\text{mg}/\text{m}^3$ )		事後調査結果 ( $\text{mg}/\text{m}^3$ )	
	年平均値	日平均値	期間平均値	日平均値の 期間最大値
最大着地濃度出現地点 (計画地北北西側 敷地境界約 475m)	0.02101111	0.048	-	-
No.1 クリーンセンター敷地内	-	-	0.011	0.026
No.2 大野田小学校敷地内	0.02200471	0.050	0.010	0.022
No.3 井之頭小学校敷地内	0.02200438	0.050	0.011	0.023
No.4 第五小学校敷地内	0.01900473	0.045	0.013	0.028



注1) 事後調査結果について、年平均値は「期間平均値」である。

注2) 「最大着地濃度出現地点」は予測・評価結果のみ、「No.1 クリーンセンター敷地内」は事後調査結果のみ示す。

図 浮遊粒子状物質の予測・評価結果と事後調査結果の比較（年平均値）



注1) 事後調査結果について、日平均値は「日平均値の最大値」である。

注2) 「最大着地濃度出現地点」は予測・評価結果のみ、「No.1 クリーンセンター敷地内」は事後調査結果のみ示す。

**図 浮遊粒子状物質の予測・評価結果と事後調査結果の比較（日平均値）**

**表 バックグラウンド濃度の予測条件と事後調査結果の比較**

項目	予測・調査地点	予測条件 <sup>注1)</sup>	事後調査結果 <sup>注2)</sup>	参考：平成23年の冬季調査結果 <sup>注3)</sup>
浮遊粒子状物質 (mg/m³)	No.1 クリーンセンター敷地内	0.021	0.011	0.013
	No.2 大野田小学校敷地内	0.022	0.010	0.011
	No.3 井之頭小学校敷地内	0.022	0.011	0.013
	No.4 第五小学校敷地内	0.019	0.013	0.011

注1) 予測条件は、平成23年に実施した現地調査結果の四季平均値である。なお、予測では最大着地濃度出現地点のバックグラウンド濃度を「No.1 クリーンセンター敷地内」の四季平均値としていたことから、「No.1 クリーンセンター敷地内」についても比較を行った。

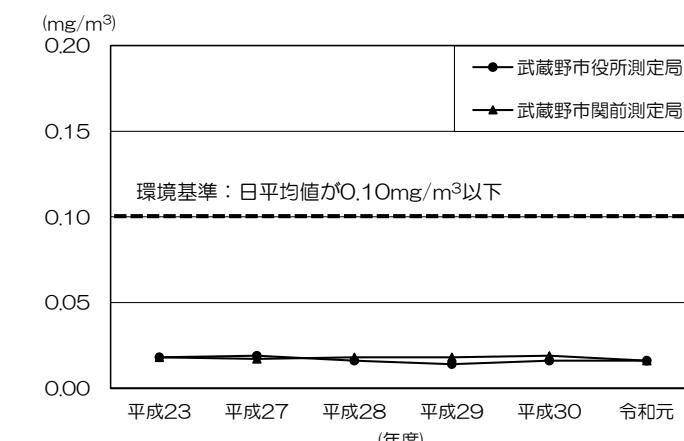
注2) 事後調査結果は、期間平均値である。

注3) 大気汚染物質によっては季節変動があることから、参考として平成23年に実施した冬季の現地調査結果の期間平均値を示す。

**表 計画地周辺の一般環境測定局の浮遊粒子状物質の推移**

項目	測定期	年 度					
		平成23	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元
浮遊粒子状物質 (mg/m³)	武藏野市役所 測定期	0.018	0.019	0.016	0.014	0.016	0.016
	武藏野市閑前 測定期	0.018	0.017	0.018	0.018	0.019	0.016

注) 各年度の年平均値を示す。



**図 計画地周辺の一般環境測定局の浮遊粒子状物質の推移**

### (3) 二酸化硫黄

二酸化硫黄の期間平均値は 0.000~0.001ppm であり、予測・評価結果（年平均値：0.00100452~0.00101145ppm）と同程度であった。また、二酸化硫黄の日平均値の期間最大値は 0.001~0.002ppm であり、予測・評価結果（日平均値：0.003ppm）と同程度であった。

バックグラウンド濃度についても、予測条件と比較して、同程度であった。なお、大気汚染物質によっては季節変動があることから、事後調査結果と平成 23 年に実施した冬季の現地調査結果を比較すると、同程度であった。計画地周辺の一般環境大気測定局で測定が行われている二酸化硫黄の平成 23 年度及び過去 5 年間の推移をみると、横ばいであり、バックグラウンド濃度の予測条件と事後調査結果の比較と同様の傾向がみられた。

**表 二酸化硫黄の予測・評価結果と事後調査結果の比較**

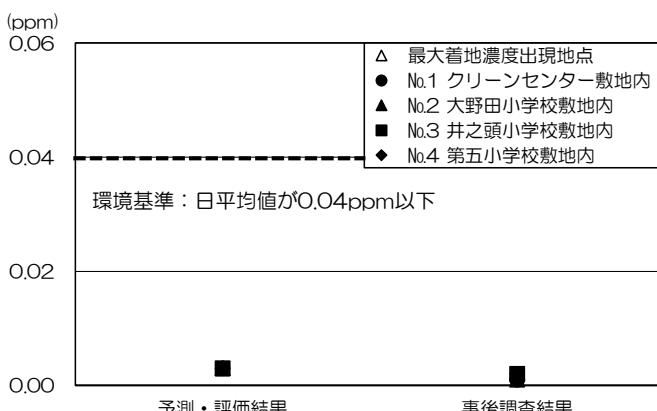
予測・調査地点	予測・評価結果 (ppm)		事後調査結果 (ppm)	
	年平均値	日平均値	期間平均値	日平均値の 期間最大値
最大着地濃度出現地点 (計画地北北西側 敷地境界約 475m)	0.00101145	0.003	-	-
No.1 クリーンセンター敷地内	-	-	0.000	0.001
No.2 大野田小学校敷地内	0.00100486	0.003	0.001	0.001
No.3 井之頭小学校敷地内	0.00100452	0.003	0.001	0.002
No.4 第五小学校敷地内	0.00100487	0.003	0.000	0.002



注1) 事後調査結果について、年平均値は「期間平均値」である。

注2) 「最大着地濃度出現地点」は予測・評価結果のみ、「No.1 クリーンセンター敷地内」は事後調査結果のみ示す。

**図 二酸化硫黄の予測・評価結果と事後調査結果の比較（年平均値）**



注1) 事後調査結果について、日平均値は「日平均値の最大値」である。

注2) 「最大着地濃度出現地点」は予測・評価結果のみ、「No.1 クリーンセンター敷地内」は事後調査結果のみ示す。

図 二酸化硫黄の予測・評価結果と事後調査結果の比較（日平均値）

表 バックグラウンド濃度の予測条件と事後調査結果の比較

項目	予測・調査地点	予測条件 <sup>注1)</sup>	事後調査結果 <sup>注2)</sup>	参考：平成23年の冬季調査結果 <sup>注3)</sup>
二酸化硫黄 (ppm)	No.1 クリーンセンター敷地内	0.001	0.000	0.001 未満
	No.2 大野田小学校敷地内	0.001	0.001	0.001
	No.3 井之頭小学校敷地内	0.001	0.001	0.001 未満
	No.4 第五小学校敷地内	0.001	0.000	0.001

注1) 予測条件は、平成23年に実施した現地調査結果の四季平均値である。なお、予測では最大着地濃度出現地点のバックグラウンド濃度を「No.1 クリーンセンター敷地内」の四季平均値としていたことから、「No.1 クリーンセンター敷地内」についても比較を行った。

注2) 事後調査結果は、期間平均値である。

注3) 大気汚染物質によっては季節変動があることから、参考として平成23年に実施した冬季の現地調査結果の期間平均値を示す。

表 計画地周辺の一般環境測定局の二酸化硫黄の推移

項目	測定期	年 度					
		平成23	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元
二酸化硫黄 (ppm)	武藏野市役所 測定局	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001
	武藏野市閑前 測定局	0.001	0.001	0.001	0.000	0.000	0.000

注) 各年度の年平均値の値を示す。

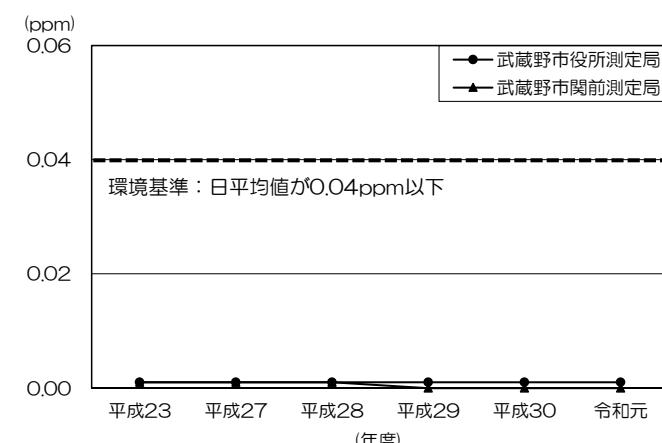


図 計画地周辺の一般環境測定局の二酸化硫黄の推移

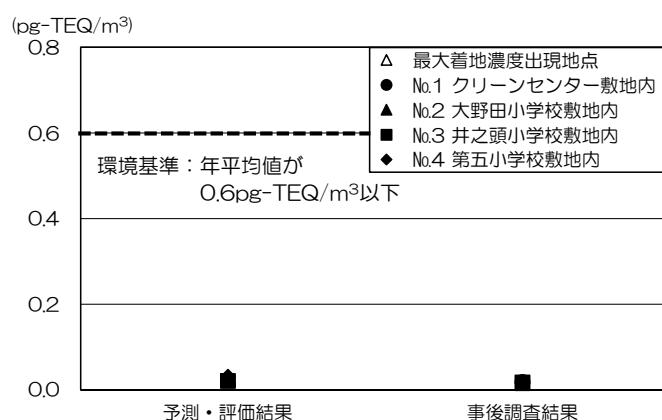
#### (4) ダイオキシン類

ダイオキシン類の期間平均値は 0.015~0.018 pg-TEQ/m<sup>3</sup> であり、予測・評価結果（年平均値：0.02004~0.03005 pg-TEQ/m<sup>3</sup>）を下回っていた。

事後調査結果が予測・評価結果を下回った理由としては、バックグラウンド濃度が予測条件と比較して、下回ったことが考えられる。なお、大気汚染物質によっては季節変動があることから、事後調査結果と平成 23 年に実施した冬季の現地調査結果を比較すると、事後調査結果は平成 23 年に実施した冬季の現地調査結果を下回っていた。

表 ダイオキシン類の予測・評価結果と事後調査結果の比較

予測・調査地点	予測・評価結果 (pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	事後調査結果 (pg-TEQ/m <sup>3</sup> )
	年平均値	期間平均値
最大着地濃度出現地点 (市街地北北西側 敷地境界約 475m)	0.02711	-
No.1 クリーンセンター敷地内	-	0.018
No.2 大野田小学校敷地内	0.02805	0.015
No.3 井之頭小学校敷地内	0.02004	0.017
No.4 第五小学校敷地内	0.03005	0.016



注1) 事後調査結果について、年平均値は「期間平均値」である。

注2) 「最大着地濃度出現地点」は予測・評価結果のみ、「No.1 クリーンセンター敷地内」は事後調査結果のみ示す。

図 ダイオキシン類の予測・評価結果と事後調査結果の比較（年平均値）

表 バックグラウンド濃度の予測条件と事後調査結果の比較

項目	予測・調査地点	予測条件 <sup>注1)</sup>	事後調査結果 <sup>注2)</sup>	参考：平成 23 年の冬季調査結果 <sup>注3)</sup>
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³)	No.1 クリーンセンター敷地内	0.027	0.018	0.036
	No.2 大野田小学校敷地内	0.028	0.015	0.042
	No.3 井之頭小学校敷地内	0.020	0.017	0.022
	No.4 第五小学校敷地内	0.030	0.016	0.044

注 1) 予測条件は、平成 23 年に実施した現地調査結果の四季平均値である。なお、予測では最大着地濃度出現地点のバックグラウンド濃度を「No.1 クリーンセンター敷地内」の四季平均値としていたことから、「No.1 クリーンセンター敷地内」についても比較を行った。

注 2) 事後調査結果は、期間平均値である。

注 3) 大気汚染物質によっては季節変動があることから、参考として平成 23 年に実施した冬季の現地調査結果の期間平均値を示す。

## (5) 塩化水素

塩化水素の期間平均値はすべての地点において 0.002ppm 未満であり、予測・評価結果（年平均値：0.00100452～0.00201145ppm）と同程度であった。

バックグラウンド濃度についても、予測条件と比較して、同程度であった。なお、大気汚染物質によっては季節変動があることから、事後調査結果と平成 23 年に実施した冬季の現地調査結果を比較すると、同程度であった。

**表 塩化水素の予測・評価結果と事後調査結果の比較**

予測・調査地点	予測・評価結果 (ppm)	事後調査結果 (ppm)
	年平均値	期間平均値
最大着地濃度出現地点 (駒込北北西側 敷地境界約475m)	0.00201145	-
No.1 クリーゼタ-敷地内	-	0.002 未満
No.2 大野田小学校敷地内	0.00100486	0.002 未満
No.3 井之頭小学校敷地内	0.00100452	0.002 未満
No.4 第五小学校敷地内	0.00100487	0.002 未満
環境庁大気保全局長通知に示す 目標環境濃度	0.02ppm 以下	

**表 バックグラウンド濃度の予測条件と事後調査結果の比較**

項目	予測・調査地点	予測条件 <sup>注1)</sup>	事後調査結果 <sup>注2)</sup>	参考：平成 23 年の 冬季調査結果 <sup>注3)</sup>
塩化水素 (ppm)	No.1 クリーゼタ-敷地内	0.002	0.002 未満	0.001
	No.2 大野田小学校敷地内	0.001	0.002 未満	0.000
	No.3 井之頭小学校敷地内	0.001	0.002 未満	0.001
	No.4 第五小学校敷地内	0.001	0.002 未満	0.001

注 1) 予測条件は、平成 23 年に実施した現地調査結果の四季平均値である。なお、予測では最大着地濃度出現地点のバックグラウンド濃度を「No.1 クリーゼタ-敷地内」の四季平均値としていたことから、「No.1 クリーゼタ-敷地内」についても比較を行った。

注 2) 事後調査結果は、期間平均値である。

注 3) 大気汚染物質によっては季節変動があることから、参考として平成 23 年に実施した冬季の現地調査結果の期間平均値を示す。

## (6) その他の有害物質

その他の有害物質については、予測・評価を行っていないため、平成 23 年に実施した冬季の調査結果と事後調査結果の比較を行った。

### 1) 水 銀

水銀の平成 23 年に実施した冬季の調査結果と事後調査結果は、同程度であった。また、排気口での排気濃度は、定量下限値未満であった。また、煙突排ガス濃度は、1号炉及び2号炉ともに規制基準を下回っていた。

**表 水銀の平成 23 年に実施した冬季の調査結果と事後調査結果の比較**

予測・調査地点	平成 23 年に実施した冬季の調査結果 (ng/m <sup>3</sup> )	事後調査結果 (ng/m <sup>3</sup> )
	期間平均値	期間平均値
No.1 クリーセンタ-敷地内	2.1	4 未満
No.2 大野田小学校敷地内	2.1	4 未満
No.3 井之頭小学校敷地内	2.2	4 未満
No.4 第五小学校敷地内	2.2	4 未満
有害大気汚染物質に係る指針値	40ng/m <sup>3</sup> 以下	

**表 排気口の排気濃度等の調査結果**

項目	単位	調査結果
排ガス諸元	排出ガス温度	°C 20
	流速	m/s 7.4
	湿り排出ガス	m <sup>3</sup> N/h 14,700
	乾き排出ガス	m <sup>3</sup> N/h 14,500
	水分量	vol% 1.4
	二酸化炭素	vol% 0.2
	酸素	vol% 20.8
	一酸化炭素	vol% 0.0
	窒素	vol% 79.0
	空気比	— 99.75
排気濃度	水銀	μg/m <sup>3</sup> N 3.6
	ベンゼン	ppm 1 未満
	アセトン	ppm 1 未満
	トリクロロエチレン	ppm 1 未満
	テトラクロロエチレン	ppm 1 未満
	ジクロロメタン	ppm 1 未満
	トルエン	ppm 1 未満
	珪じん (ばいじん)	gN/m <sup>3</sup> 0.001 未満

注) 調査日 : 令和2年12月15日(火)

**表 煙突排ガス濃度等の調査結果**

項目	単位	調査結果		規制基準	
		1号炉	2号炉	1号炉	2号炉
排ガス諸元	排出ガス温度	°C 173	160	—	—
	流速	m/s 12.7	12.4	—	—
	湿り排出ガス	m <sup>3</sup> N/h 13,300	13,500	—	—
	乾き排出ガス	m <sup>3</sup> N/h 10,600	10,900	—	—
	水分量	vol% 20.3	18.9	—	—
排出濃度	窒素酸化物	ppm 34	33	250	250
	ばいじん	gN/m <sup>3</sup> 0.001 未満	0.001 未満	0.15	0.15
	硫黄酸化物	ppm 0.91	1.1	—	—
	酸化物	m <sup>3</sup> /h 0.016	0.020	5.350	5.311
	ダイオキシン類	ng-TEQ/m <sup>3</sup> 0.008	0.018	5	5
	塩化水素	ppm 3.0	3.2	430	430
	水銀	μg/m <sup>3</sup> N 0.17	0.57	50	50

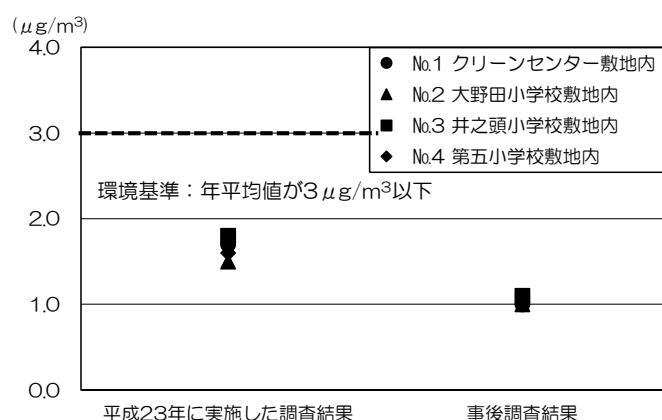
注) 調査日 : (1号炉) 令和3年1月7日(木)  
(2号炉) 令和3年2月4日(木)

## 2) ベンゼン

ベンゼンの事後調査結果は、平成 23 年に実施した冬季の調査結果を下回った。また、排気口での排気濃度は、定量下限値未満であった。

**表 ベンゼンの平成 23 年に実施した冬季の調査結果と事後調査結果の比較**

予測・調査地点	平成 23 年に実施した冬季の調査結果 ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	事後調査結果 ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )
	期間平均値	期間平均値
No.1 クリーンセンター敷地内	1.7	1.0
No.2 大野田小学校敷地内	1.5	1.0
No.3 井之頭小学校敷地内	1.8	1.1
No.4 第五小学校敷地内	1.6	1.1



注) 平成 23 年に実施した調査結果について、冬季の期間平均値を示す。

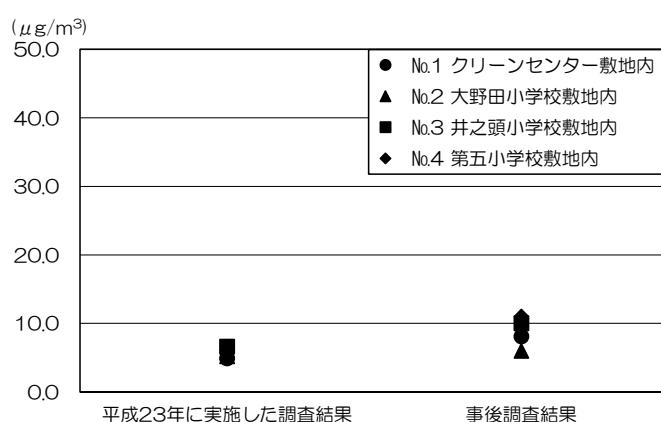
**図 ベンゼンの平成 23 年に実施した冬季の調査結果と事後調査結果の比較**

### 3) アセトン

アセトンの事後調査結果は平成 23 年に実施した冬季の調査結果を上回っていたが、排気口での排気濃度は、定量下限値未満であった。

表 アセトンの平成 23 年に実施した冬季の調査結果と事後調査結果の比較

予測・調査地点	平成 23 年に実施した冬季の調査結果 ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	事後調査結果 ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )
	期間平均値	期間平均値
No.1 クリーンセンター敷地内	4.9	8.1
No.2 大野田小学校敷地内	5.2	6.0
No.3 井之頭小学校敷地内	6.6	10.0
No.4 第五小学校敷地内	6.1	11.0



注) 平成 23 年に実施した調査結果について、冬季の期間平均値を示す。

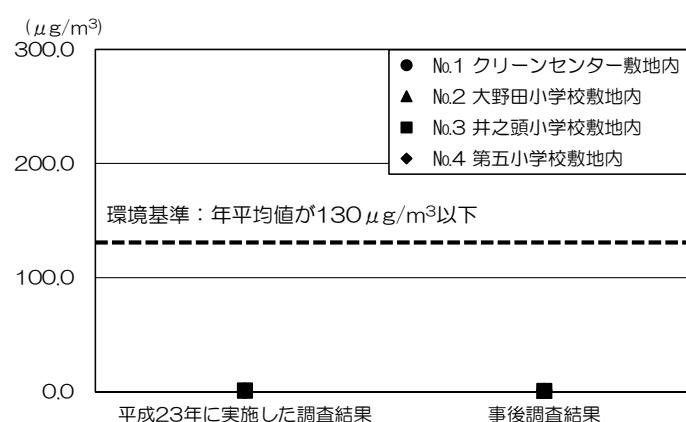
図 アセトンの平成 23 年に実施した冬季の調査結果と事後調査結果の比較

#### 4) トリクロロエチレン

トリクロロエチレンの平成 23 年に実施した冬季の調査結果と事後調査結果は、同程度であった。なお、排気口での排気濃度は、定量下限値未満であった。

表 トリクロロエチレンの平成 23 年に実施した冬季の調査結果と事後調査結果の比較

予測・調査地点	平成 23 年に実施した調査結果 ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	事後調査結果 ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )
	期間平均値	期間平均値
No.1 クリーンセンター敷地内	1.1	0.8
No.2 大野田小学校敷地内	1.1	0.8
No.3 井之頭小学校敷地内	1.2	0.7
No.4 第五小学校敷地内	1.1	0.8



注) 平成 23 年に実施した調査結果について、冬季の期間平均値を示す。

図 トリクロロエチレンの平成 23 年に実施した冬季の調査結果と事後調査結果の比較

## 5) テトラクロロエチレン

テトラクロロエチレンの平成 23 年に実施した冬季の調査結果と事後調査結果は、同程度であった。なお、排気口での排気濃度は、定量下限値未満であった。

**表 テトラクロロエチレンの平成 23 年に実施した冬季の調査結果と事後調査結果の比較**

予測・調査地点	平成 23 年に実施した冬季の調査結果 ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	事後調査結果 ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )
	期間平均値	期間平均値
No.1 クリーンセンター敷地内	0.3	0.3
No.2 大野田小学校敷地内	0.3	0.2
No.3 井之頭小学校敷地内	0.2	0.2
No.4 第五小学校敷地内	0.3	0.2



注) 平成 23 年に実施した調査結果について、冬季の期間平均値を示す。

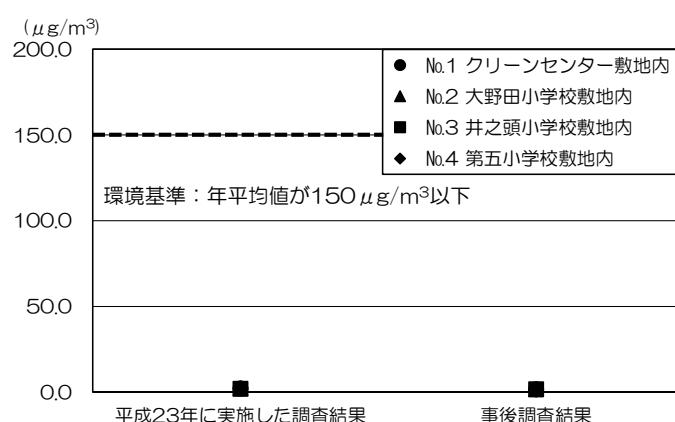
**図 テトラクロロエチレンの平成 23 年に実施した冬季の調査結果と事後調査結果の比較**

## 6) ジクロロメタン

ジクロロメタンの平成 23 年に実施した冬季の調査結果と事後調査結果は、同程度であった。なお、排気口での排気濃度は、定量下限値未満であった。

表 ジクロロメタンの平成 23 年に実施した冬季の調査結果と事後調査結果の比較

予測・調査地点	平成 23 年に実施した冬季の調査結果 ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	事後調査結果 ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )
	期間平均値	期間平均値
No.1 クリーンセンター敷地内	2.0	1.6
No.2 大野田小学校敷地内	2.1	1.6
No.3 井之頭小学校敷地内	1.9	1.6
No.4 第五小学校敷地内	2.1	1.5



注) 平成 23 年に実施した調査結果について、冬季の期間平均値を示す。

図 ジクロロメタンの平成 23 年に実施した冬季の調査結果と事後調査結果の比較

## 7) トルエン

トルエンのNo.1～No.3 の事後調査結果は平成 23 年に実施した冬季の調査結果を下回っており、No.4 の事後調査結果は平成 23 年に実施した冬季の調査結果を上回っていたが、排気口での排気濃度は定量下限値未満であった。

**表 トルエンの平成 23 年に実施した冬季の調査結果と事後調査結果の比較**

予測・調査地点	平成 23 年に実施した冬季の調査結果 ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	事後調査結果 ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )
	期間平均値	期間平均値
No.1 クリーンセンター敷地内	11.0	8.9
No.2 大野田小学校敷地内	9.9	8.3
No.3 井之頭小学校敷地内	12.0	8.2
No.4 第五小学校敷地内	11.0	16.4



注) 平成 23 年に実施した調査結果について、冬季の期間平均値を示す。

**図 トルエンの平成 23 年に実施した冬季の調査結果と事後調査結果の比較**

## (7) 大気汚染の予測・評価結果等と事後調査結果の比較に関するまとめ

**二酸化窒素**：期間平均値は、予測・評価結果と同程度であった。また、日平均値の期間最大値は、予測・評価結果を下回っていた。

**浮遊粒子状物質**：期間平均値及び日平均値の期間最大値は、予測・評価結果を下回っていた。

**二酸化硫黄**：期間平均値及び日平均値の期間最大値は、予測・評価結果と同程度であった。

**ダイオキシン類**：期間平均値は、予測・評価結果を下回っていた。

**塩化水素**：期間平均値は、予測・評価結果と同程度であった。

**その他の有害物質**：水銀、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタンの期間平均は、平成 23 年に実施した冬季の調査結果と同程度であった。

ベンゼンの期間平均値は、平成 23 年に実施した冬季の調査結果を下回っていた。

アセトンの期間平均値は、平成 23 年に実施した冬季の調査結果を上回っていたが、排気口での排気濃度は定量下限値未満であった。

トルエンの期間平均値は、No.1～No.3 は平成 23 年に実施した冬季の調査結果を下回っており、No.4 は平成 23 年に実施した冬季の調査結果を上回っていたが、排気口での排気濃度は定量下限値未満であった。

二酸化窒素、浮遊粒子状物質、二酸化硫黄、ダイオキシン類、塩化水素の事後調査結果が予測・評価結果と同程度または下回った理由は、バックグラウンド濃度が予測条件と同程度または下回っていたことが考えられる。

さらに、排ガスはろ過式集じん装置等で汚染物質を除去し、排出していることや、法で定められた基準よりも厳しい協定基準値、各種基準値を設定・遵守し、適切な運転・管理を行っている等の環境保全措置も実施した。

したがって、施設の稼働により周辺環境に著しい影響を及ぼしていないと考える。

## 2. ごみ収集車両等の走行

### (1) 二酸化窒素

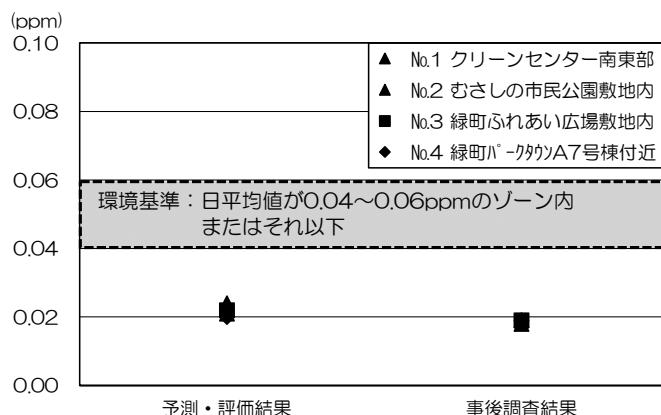
二酸化窒素の期間平均値は 0.018~0.019ppm であり、予測・評価結果（年平均値：0.020~0.024ppm）を下回っていた。また、二酸化窒素の日平均値の期間最大値はすべての地点において 0.032ppm であり、予測・評価結果（日平均値：0.035~0.040ppm）を下回っていた。

事後調査結果が予測・評価結果を下回った理由としては、バックグラウンド濃度が予測条件と比較して、下回っていたことが考えられる。なお、大気汚染物質によっては季節変動があることから、事後調査結果と平成 23 年に実施した冬季の現地調査結果を比較すると、事後調査結果は平成 23 年に実施した冬季の現地調査結果を下回っていた。計画地周辺の自動車排出ガス測定局における二酸化窒素の平成 23 年度及び過去 5 年間の推移をみると、減少傾向であり、バックグラウンド濃度の予測条件と事後調査結果の比較と同様の傾向がみられた。

また、計画地周辺の交通量が予測条件と比較して 3 割程度減少したことも要因として考えられる。

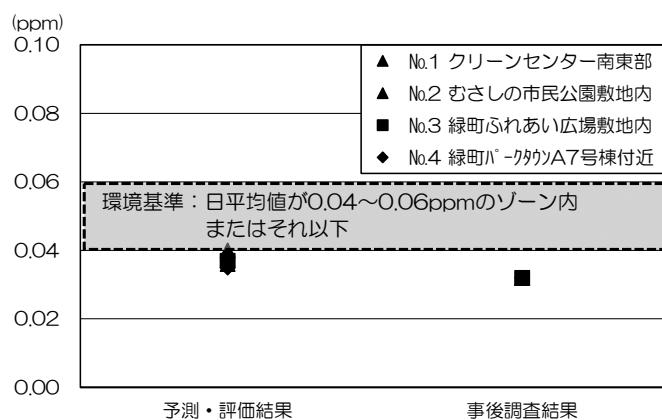
表 二酸化窒素の予測・評価結果と事後調査結果の比較

予測・調査地点	予測・評価結果 (ppm)		事後調査結果 (ppm)	
	年平均値	日平均値	期間平均値	日平均値の期間最大値
No.1 クリーンセンター南東部	0.021	0.036	0.019	0.032
No.2 むさしの市民公園敷地内	0.024	0.040	0.018	0.032
No.3 緑町ふれあい広場敷地内	0.022	0.037	0.019	0.032
No.4 緑町パーカウント A7 号棟付近	0.020	0.035	0.019	0.032



注) 事後調査結果について、年平均値は「期間平均値」である。

図 二酸化窒素の予測・評価結果と事後調査結果の比較（年平均値）



注) 事後調査結果について、日平均値は「日平均値の最大値」である。  
**図 二酸化窒素の予測・評価結果と事後調査結果の比較（日平均値）**

**表 バックグラウンド濃度の予測条件と事後調査結果の比較**

項目	予測・調査地点	予測条件 <sup>注1)</sup>	事後調査結果 <sup>注2)</sup>	参考：平成23年の冬季調査結果 <sup>注3)</sup>
二酸化窒素 (ppm)	No.1 クリーンセンター南東部	0.021	0.019	0.026
	No.2 むさしの市民公園敷地内	0.024	0.018	0.027
	No.3 緑町ふれあい広場敷地内	0.022	0.019	0.026
	No.4 緑町パーカツクA7号棟付近	0.020	0.019	0.026

注1) 予測条件は、平成23年に実施した現地調査結果の四季平均値である。

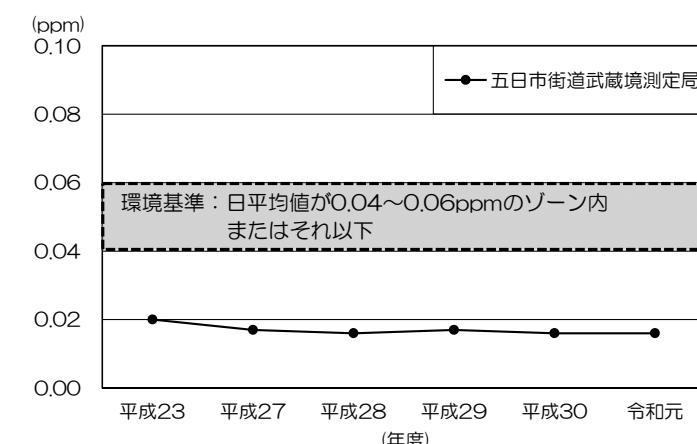
注2) 事後調査結果は、期間平均値である。

注3) 大気汚染物質によっては季節変動があることから、参考として平成23年に実施した冬季の現地調査結果の期間平均値を示す。

**表 計画地周辺の自動車排出ガス測定局の二酸化窒素の推移**

項目	測定局	年 度					
		平成23	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元
二酸化窒素 (ppm)	五日市街道武蔵境	0.020	0.017	0.016	0.017	0.016	0.016

注) 各年度の年平均値の値を示す。



**図 計画地周辺の自動車排出ガス測定局の二酸化窒素の推移**

表 断面交通量の予測条件と事後調査結果の比較

予測・調査地点	予測条件(台/日)			事後調査結果(台/日)		
	小型車	大型車	合計	小型車	大型車	合計
No.1 アリーナタウン南東部	2,152	308 (53)	2,460	1,417	315 (102)	1,732
No.2 むさしの市民公園敷地内	11,947	1,894 (79)	13,841	7,918	1,384 (112)	9,302
No.3 緑町ふれあい広場敷地内	10,807	1,716 (38)	12,523	7,143	1,207 (71)	8,350
No.4 緑町バードタウンA7号棟付近	1,543	232 (64)	1,775	1,144	208 (55)	1,352

注1) 予測条件は、平成23年に実施した現地調査結果である。

注2) ( )内は、ごみ収集車の台数(内数)を示す。

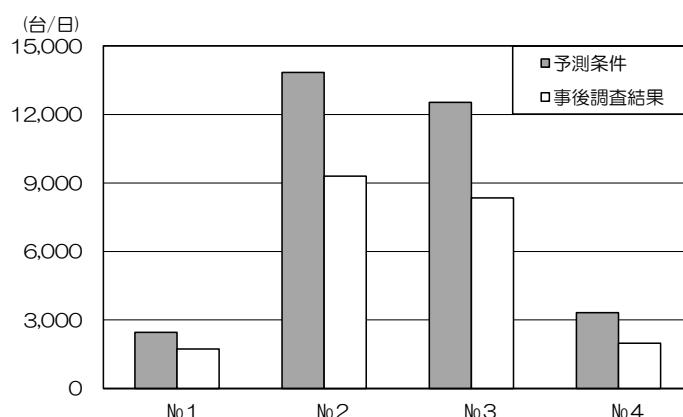


図 断面交通量の予測条件と事後調査結果の比較

## (2) 浮遊粒子状物質

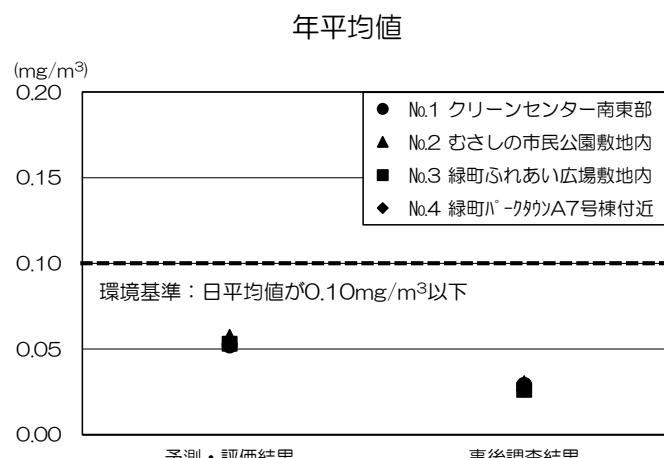
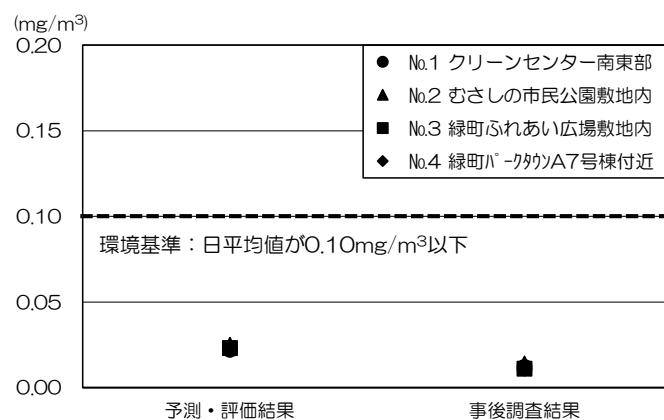
浮遊粒子状物質の期間平均値は  $0.011\sim0.014\text{mg}/\text{m}^3$  であり、予測・評価結果（年平均値： $0.022\sim0.025\text{mg}/\text{m}^3$ ）を下回っていた。また、浮遊粒子状物質の日平均値の期間最大値は  $0.026\sim0.030\text{mg}/\text{m}^3$  であり、予測・評価結果（日平均値： $0.052\sim0.057\text{mg}/\text{m}^3$ ）を下回っていた。

事後調査結果が予測・評価結果を下回った理由としては、バックグラウンド濃度が予測条件と比較して、下回っていたことが考えられる。なお、大気汚染物質によっては季節変動があることから、事後調査結果と平成 23 年に実施した冬季の現地調査結果を比較すると、概ね同程度であった。計画地周辺の自動車排出ガス測定局における浮遊粒子状物質の平成 23 年度及び過去 5 年間の推移をみると、減少傾向であり、バックグラウンド濃度の予測条件と事後調査結果の比較と同様の傾向がみられた。

また、計画地周辺の交通量が予測条件と比較して 3 割程度減少したことも要因として考えられる。

表 浮遊粒子状物質の予測・評価結果と事後調査結果の比較

予測・調査地点	予測・評価結果		事後調査結果	
	年平均値 ( $\text{mg}/\text{m}^3$ )	日平均値 ( $\text{mg}/\text{m}^3$ )	期間平均値 ( $\text{mg}/\text{m}^3$ )	日平均値の 期間最大値 ( $\text{mg}/\text{m}^3$ )
No.1 クリーンセンター南東部	0.022	0.052	0.012	0.029
No.2 むさしの市民公園敷地内	0.025	0.057	0.014	0.030
No.3 緑町ふれあい広場敷地内	0.023	0.053	0.011	0.026
No.4 緑町バーカタウン A7 号棟付近	0.023	0.053	0.011	0.026



注) 事後調査結果について、年平均値は「期間平均値」、日平均値は「日平均値の最大値」の値である。

図 浮遊粒子状物質の予測・評価結果と事後調査結果の比較

表 バックグラウンド濃度の予測条件と事後調査結果の比較

項目	予測・調査地点	予測条件 <sup>注1)</sup>	事後調査結果 <sup>注2)</sup>	参考：平成23年の 冬季調査結果 <sup>注3)</sup>
浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	No.1 クリーキング南東部	0.022	0.012	0.016
	No.2 むさしの市民公園敷地内	0.025	0.014	0.014
	No.3 緑町ふれあい広場敷地内	0.023	0.011	0.014
	No.4 緑町パークタウンA7号棟付近	0.023	0.011	0.016

注1) 予測条件は、平成23年に実施した現地調査結果の四季平均値である。

注2) 事後調査結果は、期間平均値である。

注3) 大気汚染物質によっては季節変動があることから、参考として平成23年に実施した冬季の現地調査結果の期間平均値を示す。

表 計画地周辺の自動車排出ガス測定局の浮遊粒子状物質の推移

項目	測定期	年 度					
		平成23	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元
浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	五日市街道武蔵境	0.024	0.021	0.018	0.017	0.019	0.017

注) 各年度の年平均値の値を示す。

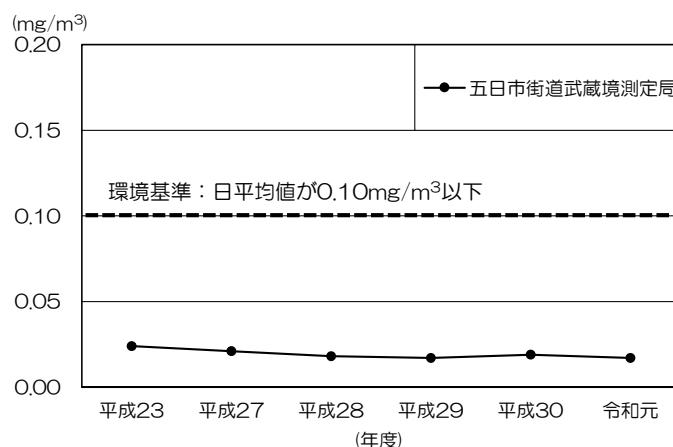


図 計画地周辺の自動車排出ガス測定局の浮遊粒子状物質の推移

### (3) 大気汚染の予測・評価結果と事後調査結果の比較に関するまとめ

二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の期間平均値及び日平均値の期間最大値は、予測・評価結果を下回っていた。

二酸化窒素、浮遊粒子状物質の事後調査結果が予測・評価結果と同程度または下回った理由は、バックグラウンド濃度が予測条件と同程度または下回っていたことが考えられる。また、計画地周辺の交通量が予測条件と比較して3割程度減少したことも要因として考えられる。

さらに、ごみ収集車両は指定した走行ルート、規制速度を遵守して走行したこと、天然ガス自動車や超低PM排出ディーゼル車を採用した等の環境保全措置の実施も実施した。

したがって、ごみ収集車両等の走行により周辺環境に著しい影響を及ぼしていないと考える。

## 4-2 悪臭

### 1. 施設の稼働

臭気指数の事後調査結果はすべての地点において10未満であり、予測・評価結果（10未満）と同程度であった。

また、平成23年に実施した敷地境界における臭気指数の現地調査結果は、炉稼働時における臭気指数は10未満～11であり、事後調査結果は建替前の現地調査結果と同程度であった。

さらに、焼却炉稼働中はごみピットの空気を焼却炉の燃料空気として利用し、臭気成分を適切に分解して排出していることや、プラットホームを地下1階とし、車両出入口に高速シートシャッター及びエアカーテンを設けて、臭気が外部に漏れにくい構造とした等の環境保全措置を実施した。

したがって、施設の稼働により周辺環境に著しい影響を及ぼしていないと考える。

表 予測・評価結果と事後調査結果の比較

予測・評価結果		事後調査結果	
調査地点	臭気指数	調査地点	臭気指数
プラットホーム入口付近 敷地境界	10未満	a)クリーンセンター 敷地境界南側	10未満
-	-	b)クリーンセンター 敷地境界東側	10未満
-	-	c)クリーンセンター 敷地境界西側	10未満
プラットホーム出口付近 敷地境界	10未満	d)クリーンセンター 敷地境界北側	10未満

表 平成23年に実施した敷地境界における臭気指数の現地調査結果

調査地点	臭気指数
No.1：計画地南側敷地境界	10未満
No.2：計画地東側敷地境界	11 <sup>注)</sup>
No.3：計画地北側敷地境界	10未満
No.4：計画地西側敷地境界	10未満
No.5：プラットホーム入口付近敷地境界	10未満
No.6：プラットホーム出口付近敷地境界	10未満

注) 臭質：草木臭

## 4-3 騒音・振動

### 1. 施設の稼働

#### (1) 騒音

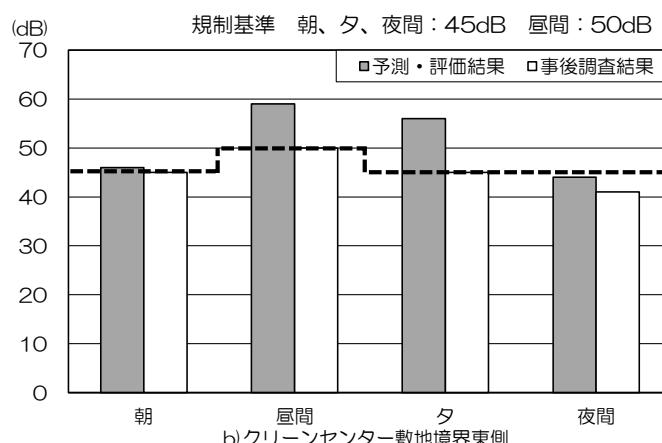
騒音の事後調査結果は朝が43~45dB、昼間が46~50dB、夕が43~45dB、夜間が41~44dBであり、予測・評価結果（朝48dB、昼間59dB、夕56dB、夜間47dB）を下回っていた。

騒音の事後調査結果が予測・評価結果を下回った理由としては、バックグラウンド騒音が予測条件と比較して低下したことが考えられる。また、設備機器は屋上の機器冷却塔を除いて建屋内に設置した等の環境保全措置の実施も要因として考えられる。

表 騒音の予測・評価結果と事後調査結果の比較

項目	予測・調査地点	予測・評価結果(dB)				事後調査結果(dB)			
		朝	昼間	夕	夜間	朝	昼間	夕	夜間
騒音	a)クリーンセンター敷地境界南側	-	-	-	-	45	50	45	44
	b)クリーンセンター敷地境界東側	48	59	56	47	45	50	45	41
	c)クリーンセンター敷地境界西側	-	-	-	-	43	46	43	42
	d)クリーンセンター敷地境界北側	-	-	-	-	45	47	45	43

注) 時間区分 朝：6~8時、昼間：8~19時、夕：19~23時、夜：23~翌6時



注1) 時間区分 朝：6~8時、昼間：8~19時、夕：19~23時、夜：23~翌6時

注2) 予測において最大値出現地点であった「b)クリーンセンター敷地境界東側」の予測・評価結果と事後調査結果を示す。

図 騒音の予測・評価結果と事後調査結果の比較

表 バックグラウンド騒音の予測条件と事後調査結果の比較

項目	予測・調査地点	時間区分	予測条件	事後調査結果
			朝	46
騒音 (dB)	b)クリーンセンター敷地境界東側	昼間	59	50
		夕	56	45
		夜間	44	44

注1) 時間区分

朝：6~8時、昼間：8~19時、夕：19~23時、夜：23~翌6時

注2) 予測条件は、平成23年に実施した現地調査結果のうち、予測・調査地点における各時間区分の最大値である。

## (2) 振動

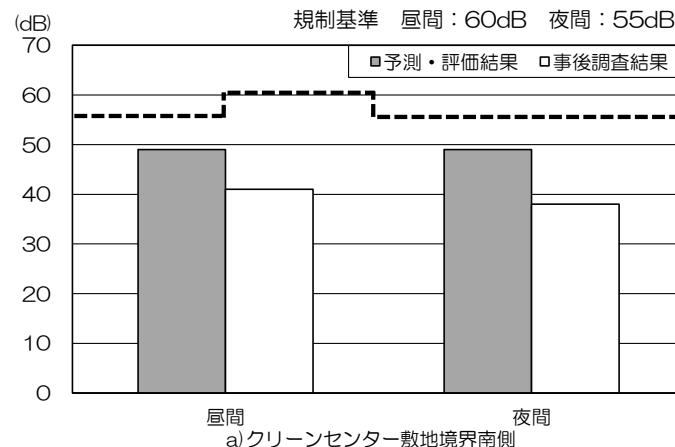
振動の事後調査結果は昼間が 36~46dB、夜間が 36~46dB であり、予測・評価結果（昼間・夜間 49dB）を下回っていた。

振動の事後調査結果が予測・評価結果を下回った理由としては、設備機器を地下2階～屋上に分散して配置したため、地表面への影響が低減されたことが考えられる。また、振動の発生するおそれのある設備機器に振動対策を行った等の環境保全措置の実施も要因として考えられる。なお、バックグラウンド振動の予測条件と事後調査結果を比較すると、昼間のバックグラウンド振動は予測条件と同程度であり、昼間及び夜間で概ね人体に感じない振動レベルである 50dB を下回っていた。

表 振動の予測・評価結果と事後調査結果の比較

項目	予測・調査地点	予測・評価結果 (dB)		事後調査結果 (dB)	
		昼間	夜間	昼間	夜間
振動	a)クリーンセンター敷地境界南側	49	49	41	39
	b)クリーンセンター敷地境界東側	-	-	40	41
	c)クリーンセンター敷地境界西側	-	-	36	36
	d)クリーンセンター敷地境界北側	-	-	46	46

注) 時間区分 昼間：8～19時、夜間：19～翌8時



注1) 時間区分 昼間：8～19時、夜間：19～翌8時

注2) 予測において最大値出現地点であった「a)クリーンセンター敷地境界南側」の予測・評価結果と事後調査結果を示す。

図 予測・評価結果と事後調査結果の比較（振動）

表 バックグラウンド振動の予測条件と事後調査結果の比較

項目	予測・調査地点	時間区分	予測条件	事後調査結果
振動 (dB)	a)クリーンセンター敷地境界南側	昼間	42	41
		夜間	34	39

注1) 時間区分 昼間：8～19時、夜間：19～翌8時

注2) 予測条件は、平成23年に実施した現地調査結果のうち、予測・調査地点における各時間区分の最大値である。

## (3) 騒音・振動の予測・評価結果と事後調査結果の比較に関するまとめ

騒音・振動の事後調査結果はすべての時間区分で予測・評価結果を下回っていた。

騒音の事後調査結果が予測・評価結果を下回った理由としては、バックグラウンド騒音が予測条件と比較して低下したことが考えられる。また、設備機器は屋上の機器冷却塔を除いて建屋内に設置した等の環境保全措置の実施も要因として考えられる。

振動の事後調査結果が予測・評価結果を下回った理由としては、設備機器を地下2階～屋上に分散して配置したため、地表面への影響が低減されたことが考えられる。また、振動の発生するおそれのある設備機器に振動対策を行った等の環境保全措置の実施も要因として考えられる。

したがって、施設の稼働により周辺環境に著しい影響を及ぼしていないと考える。

## 2. ごみ収集車両等の走行

### (1) 道路交通騒音

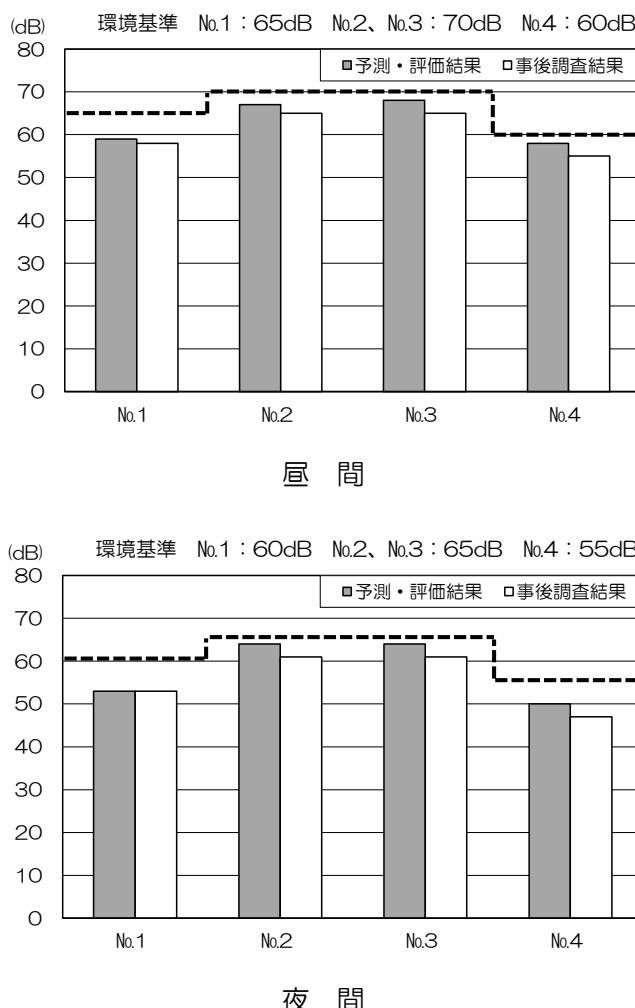
道路交通騒音の昼間は 55~65dB、夜間は 47~61dB であり、予測・評価結果（昼間 58~68dB、夜間 50~64dB）と同程度または下回っていた。

道路交通騒音の事後調査結果が予測・評価結果と同程度または下回った理由としては、計画地周辺の交通量が昼間及び夜間ともに予測条件と比較して減少したことが考えられる。

表 道路交通騒音の予測・評価結果と事後調査結果の比較

項目	調査・予測地点	予測・評価結果		事後調査結果	
		昼間	夜間	昼間	夜間
道路交通騒音 (dB)	No.1 リーソンタ-南東部	59	53	58	53
	No.2 むさしの市民公園敷地内	67	64	65	61
	No.3 緑町ふれあい広場敷地内	68	64	65	61
	No.4 緑町パークタウン A7 号棟付近	58	50	55	47

注) 時間区分 昼間：6~22 時 夜間：22~翌6時



注) 時間区分 昼間：6~22 時 夜間：22~翌6時

図 道路交通騒音の予測・評価結果と事後調査結果の比較

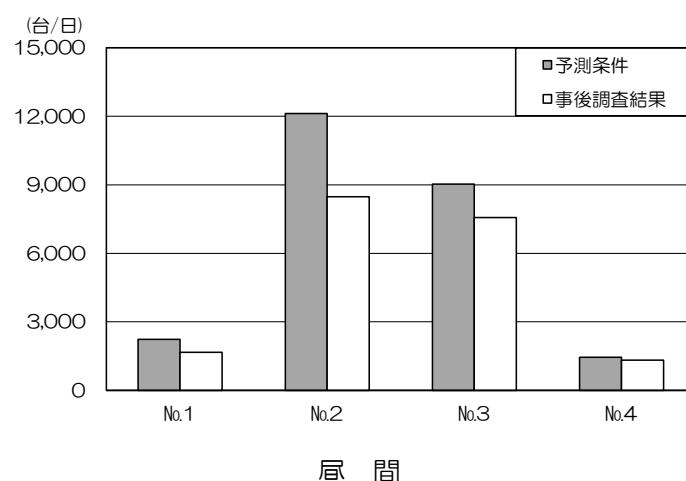
表 断面交通量の予測条件と事後調査結果の比較

予測・調査地点	時間区分	予測条件(台)			事後調査結果(台)		
		小型車	大型車	合計	小型車	大型車	合計
No.1 リーゼンタ-南東部	昼 間	1,932	299 (52)	2,231	1,353	309 (101)	1,662
	夜 間	220	9 (1)	229	64	6 (1)	70
No.2 むさしの市民公園敷地内	昼 間	10,468	1,658 (67)	12,126	7,221	1,254 (104)	8,475
	夜 間	1,479	236 (12)	1,715	697	130 (8)	827
No.3 緑町ふれあい広場敷地内	昼 間	7,788	1,239 (29)	9,027	6,506	1,058 (68)	7,564
	夜 間	3,019	477 (9)	3,496	637	149 (3)	786
No.4 緑町バ-クタ A7号棟付近	昼 間	1,250	201 (63)	1,451	1,111	204 (55)	1,315
	夜 間	293	31 (1)	324	33	4 (0)	37

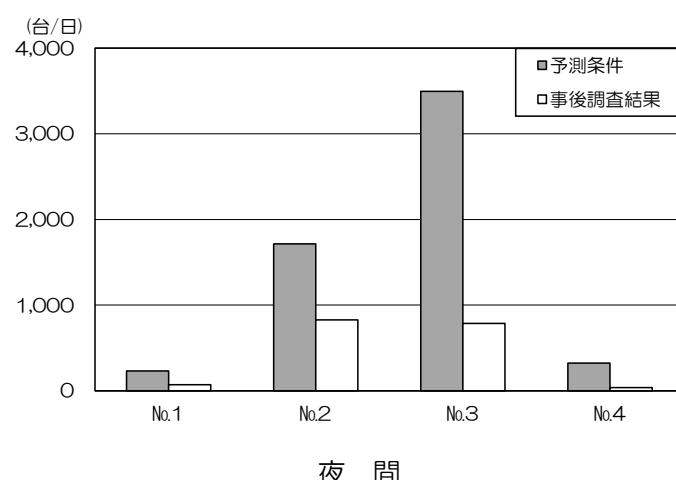
注1) 予測条件は、平成23年に実施した現地調査結果である。

注2) 時間区分 昼間:6~22時 夜間:22~翌6時

注3) ( )内は、ごみ収集車の台数(内数)を示す。



昼 間



夜 間

注1) 予測条件は、平成23年に実施した現地調査結果である。

注2) 時間区分 昼間:6~22時 夜間:22~翌6時

図 断面交通量の予測条件と事後調査結果の比較

## (2) 道路交通振動

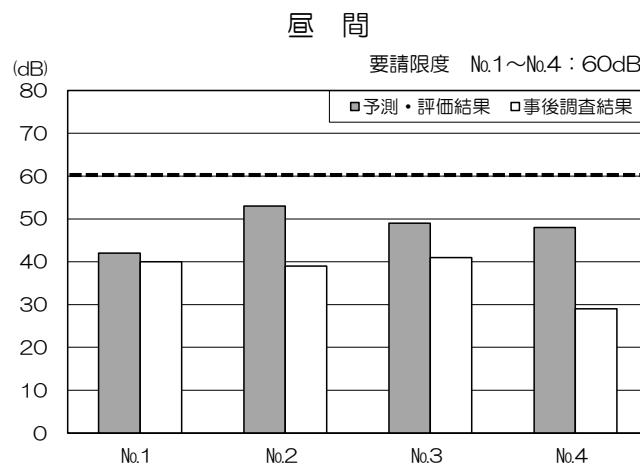
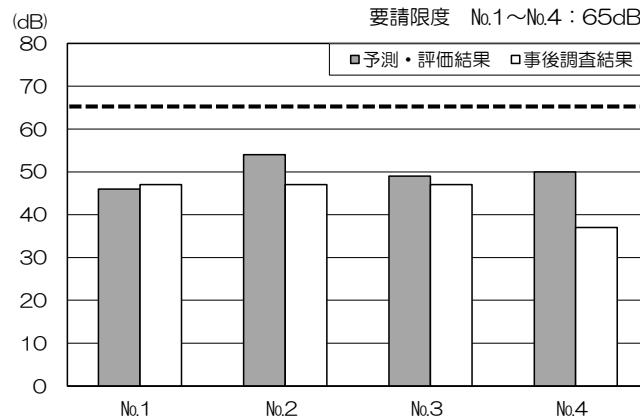
道路交通振動の昼間は 37~47dB、夜間は 29~41dB であり、予測・評価結果（昼間 46~54dB、夜間 42~53dB）と同程度または下回っていた。

道路交通振動の事後調査結果が予測・評価結果と同程度または下回った理由としては、計画地周辺の交通量が予測条件と比較して減少したことが考えられる。

**表 道路交通振動の予測・評価結果と事後調査結果の比較**

項目	調査・予測地点	予測・評価結果		事後調査結果	
		昼間	夜間	昼間	夜間
道路交通振動(dB)	No.1 リーソンタ-南東部	46	42	47	40
	No.2 むさしの市民公園敷地内	54	53	47	39
	No.3 緑町ふれあい広場敷地内	49	49	47	41
	No.4 緑町パークタウンA7号棟付近	50	48	37	29

注) 時間区分 昼間：8～19時 夜間：19～翌8時



注) 時間区分 昼間：8～19時 夜間：19～翌8時

**図 道路交通振動の予測・評価結果と事後調査結果の比較**

## (3) 道路交通騒音・振動の予測・評価結果と事後調査結果の比較に関するまとめ

道路交通騒音・振動の事後調査結果は、予測・評価結果と同程度または下回っていた。

道路交通騒音・振動の事後調査結果が予測・評価結果と同程度または下回った理由としては、計画地周辺の交通量が予測条件と比較して減少したことが考えられる。

また、ごみ収集車両は指定した走行ルート、規制速度を遵守して走行している等の環境保全措置の実施も事後調査結果が予測・評価結果と同程度または下回った要因として考えられる。

したがって、ごみ収集車両等の走行により周辺環境に著しい影響を及ぼしていないと考える。

## 4-4 低周波音

### 1. 施設の稼働

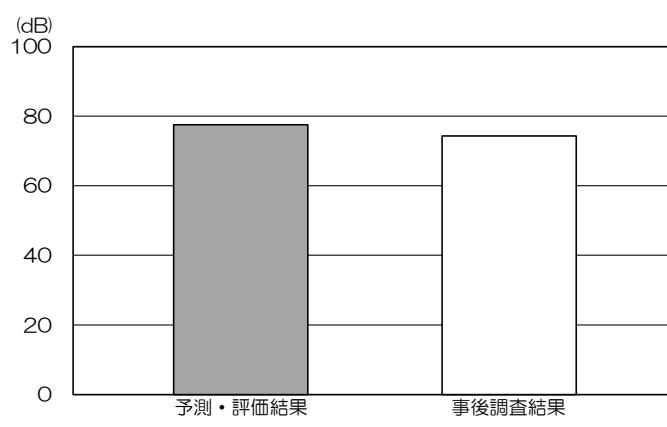
工場低周波音の事後調査結果は 66.0～77.0dB であり、予測・評価結果（78dB）を下回っていた。

事後調査結果が予測・評価結果を下回った理由としては、設備機器は屋上の機器冷却塔を除いて建屋内に設置したことや、低周波音の発生源と考えられる設備機器は、堅固に取り付けを行い、適切に維持・管理を行っている等の環境保全措置の実施が要因として考えられる。

したがって、施設の稼働により周辺環境に著しい影響を及ぼしていないと考える。

表 予測・評価結果と事後調査結果の比較

予測・評価結果		事後調査結果	
予測地点	低周波音の音圧レベル (G特性音圧レベル)	調査地点	低周波音の音圧レベル (G特性音圧レベル)
最大値出現地点 (計画地南側敷地境界)	78dB (77.5dB)	a)クリーンセンター 敷地境界南側	74.3dB
	-	b)クリーンセンター 敷地境界東側	71.0dB
	-	c)クリーンセンター 敷地境界西側	66.0dB
	-	d)クリーンセンター 敷地境界北側	77.0dB



注) 予測において最大値出現地点であった「a)クリーンセンター敷地境界南側」の予測・評価結果と事後調査結果を示す。

図 予測・評価結果と事後調査結果の比較

## 4-5 地盤

### 1. 施設の存在

事後調査の地盤変形の各地点における初期値との差は-3~+2mm であり、大きな地盤の変形はなかった。

また、工事中における初期値との差は、-5~+4mm（調査地点3～5は除く）であり、工事中から供用後にかけても大きな地盤の変形はなかった。なお、調査地点3～5は外構工事により整備が行われ、工事中と供用後で測量位置が異なるため、単純に比較はできないが、供用後の初期値から大きな地盤の変形はない。

したがって、施設の存在により周辺環境に著しい影響を及ぼしていないと考える。

表 地盤変形の調査結果

調査日	調査地点											
	地点1		地点2		地点3		地点4		地点5		地点6	
	標高 (m)	初期値と の差 (mm)										
初期値 (R2626)	56.797	-	56.584	-	57.207	-	57.948	-	58.135	-	57.581	-
2回目 (R2721)	56.797	0	56.584	0	57.207	0	57.948	0	58.134	-1	57.581	0
3回目 (R2820)	56.796	-1	56.583	-1	57.206	-1	57.946	-2	58.133	-2	57.580	-1
4回目 (R2925)	56.795	-2	56.582	-2	57.207	0	57.945	-3	58.133	-2	57.579	-2
5回目 (R21026)	56.796	-1	56.584	0	57.209	+2	57.948	0	58.134	-1	57.581	0
6回目 (R21126)	56.796	-1	56.583	-1	57.207	0	57.947	-1	58.133	-2	57.580	-1
7回目 (R21222)	56.796	-1	56.583	-1	57.207	0	57.948	0	58.134	-1	57.580	-1
8回目 (R3121)	56.796	-1	56.582	-2	57.207	0	57.946	-2	58.132	-3	57.588	-3
9回目 (R3222)	56.797	0	56.583	-1	57.208	+1	57.947	-1	58.133	-2	57.579	-2
10回目 (R3322)	56.797	0	56.583	-1	57.207	0	57.948	0	58.133	-2	57.579	-2
11回目 (R3422)	56.797	0	56.584	0	57.207	0	57.947	-1	58.132	-3	57.580	-1
12回目 (R3520)	56.797	0	56.583	-1	57.207	0	57.947	-1	58.132	-3	57.579	-2

表 工事中の初期値と事後調査結果の比較

調査日	調査地点											
	地点1		地点2		地点3 <sup>注)</sup>		地点4 <sup>注)</sup>		地点5 <sup>注)</sup>			
	標高 (m)	工事中の 初期値と の差 (mm)	標高 (m)	工事中の 初期値と の差 (mm)	標高 (m)	工事中の 初期値と の差 (mm)	標高 (m)	工事中の 初期値と の差 (mm)	標高 (m)	工事中の 初期値と の差 (mm)		
工事中の初期値 (H26520)	56.801	-	56.580	-	57.129	-	57.907	-	58.199	-	57.584	-
供用後の初期値 R2626	56.797	-4	56.584	+4	57.207	(+78)	57.948	(+41)	58.135	(-64)	57.581	-3
供用後の12回目 (R3520)	56.797	-4	56.583	+3	57.207	(+78)	57.947	(+40)	58.132	(-67)	57.579	-5

注) 調査地点3～5は外構工事により整備が行われ、工事中と供用後で測量位置が異なるため、単純に比較はできない。

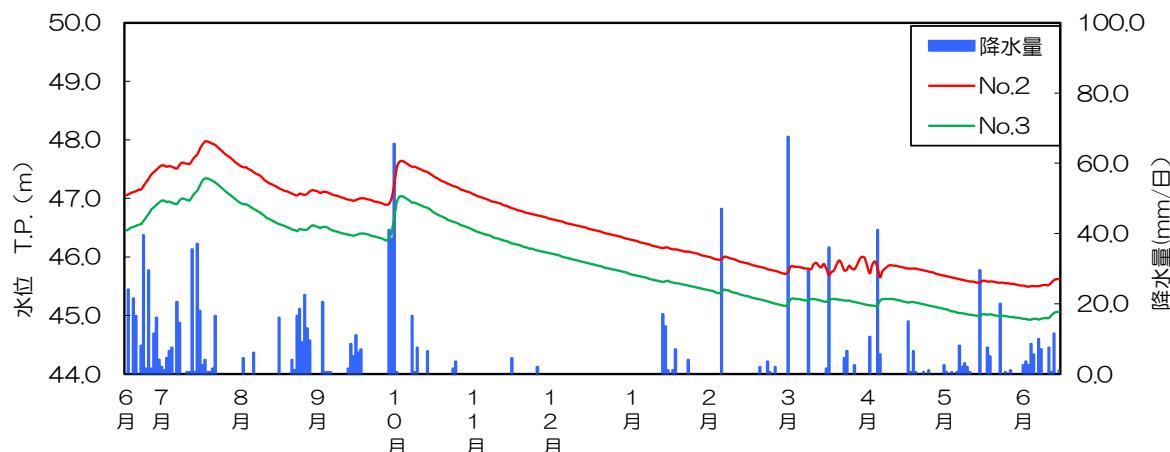
## 4-6 水循環

### 1. 施設の存在

地下水位はNo.2でT.P.+45.5~48.0m、No.3でT.P.+44.9~47.3mであり、概ね降水量に対応した変動を示していた。

また、事後調査結果は建替前の地下水位と概ね同程度で変動しており、平成23年に実施した地下水位の現地調査においても、事後調査と同様に概ね降水量に対応した変動を示していた。

したがって、施設の存在により周辺環境に著しい影響を及ぼしていないと考える。

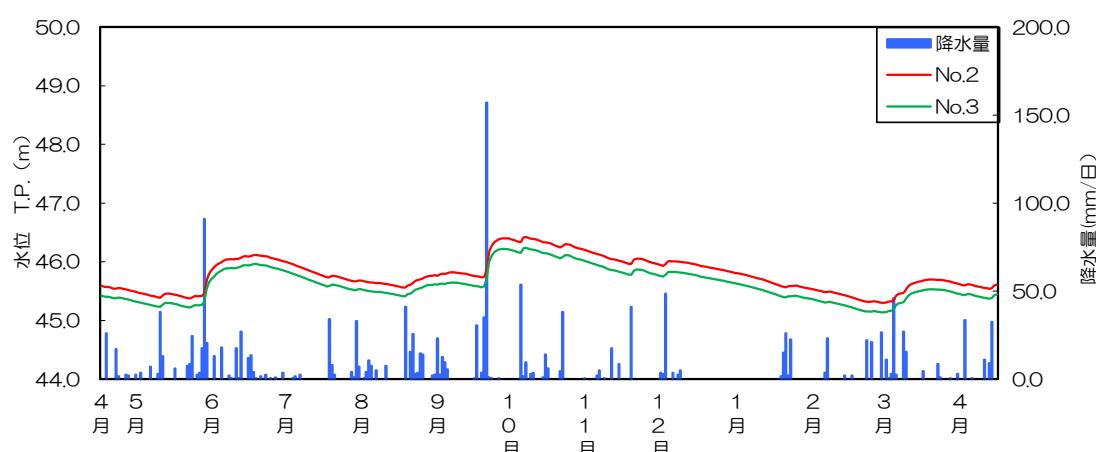


注1) 地下水位は、各日の24時間平均値とした。

注2) 調査期間：令和2年6月27日（土）～令和3年6月26日（土）

資料：「降水量（府中観測所）」（気象庁ホームページ）

図 地下水位の調査結果



注) 調査期間：平成23年4月17日（日）～平成24年4月16日（月）

図 平成23年に実施した地下水位の現地調査結果

## 4-7 日影

### 1. 施設の存在

事後調査の結果、冬至日における4時間日影線は敷地境界から5m未満、2.5時間日影線は敷地境界から10m未満であり、「東京都日影による中高層建築物の高さの制限に関する条例」に定める基準を下回った。

また、等時間日影図の予測・評価結果は、冬至日における4時間日影線は敷地境界から5m未満、2.5時間日影線は敷地境界から10m未満であり、事後調査結果は予測・評価結果と概ね同様であった。

事後調査結果が予測・評価結果と同様に基準を下回った理由としては、計画のとおり新施設を可能な限り北側に寄らない配置としたことや、新施設の建物高さを計画よりも低い最大約18mとした等の環境保全措置の実施が要因として考えられる。

したがって、施設の存在により周辺環境に著しい影響を及ぼしていないと考える。

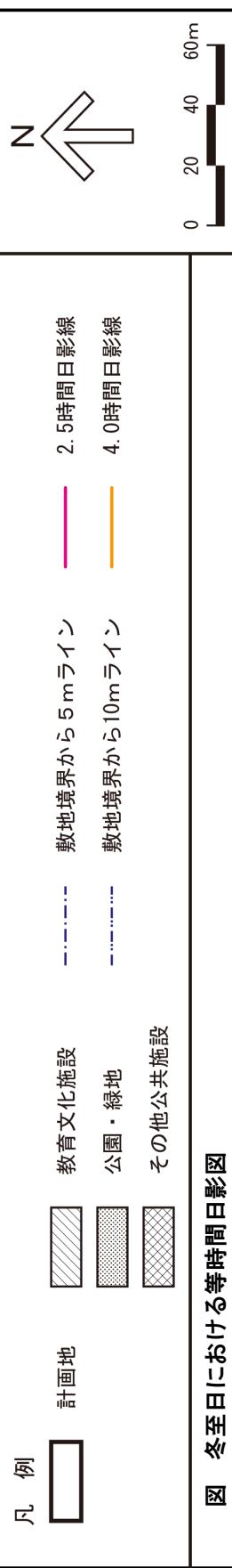
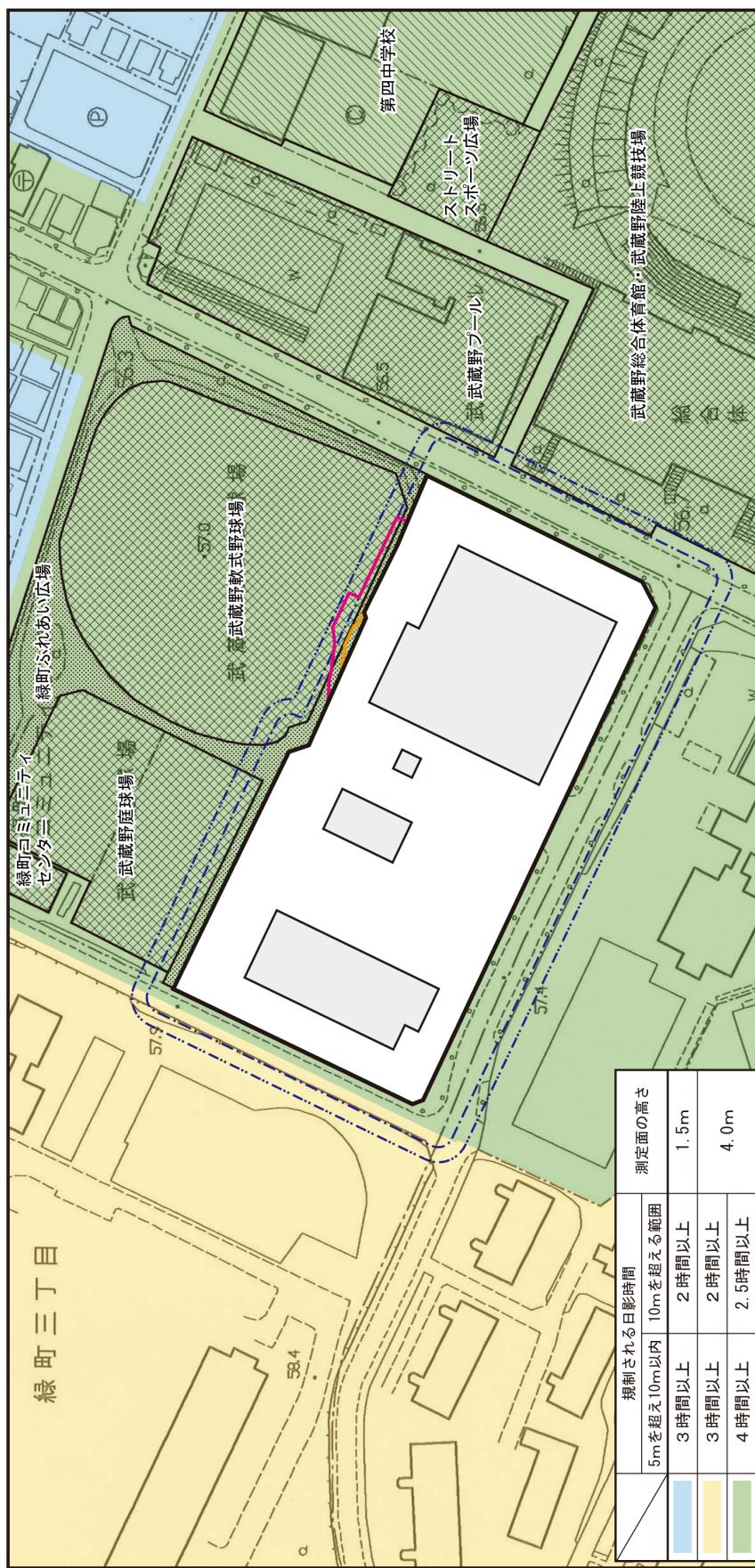


図 冬至日における等時間日影図

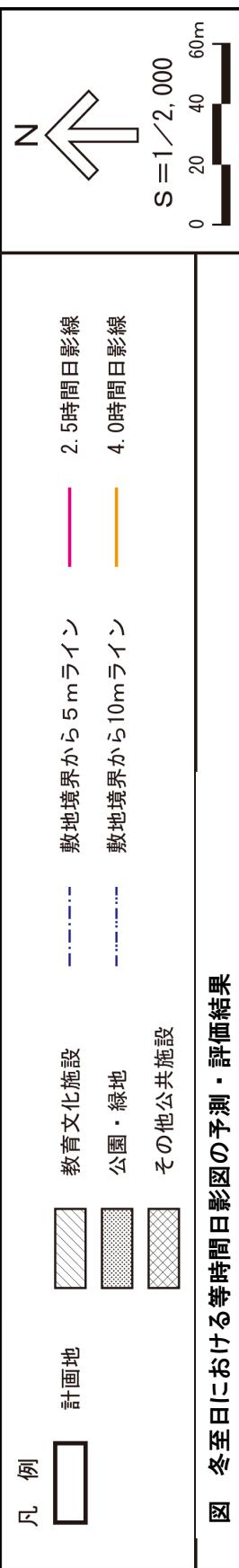
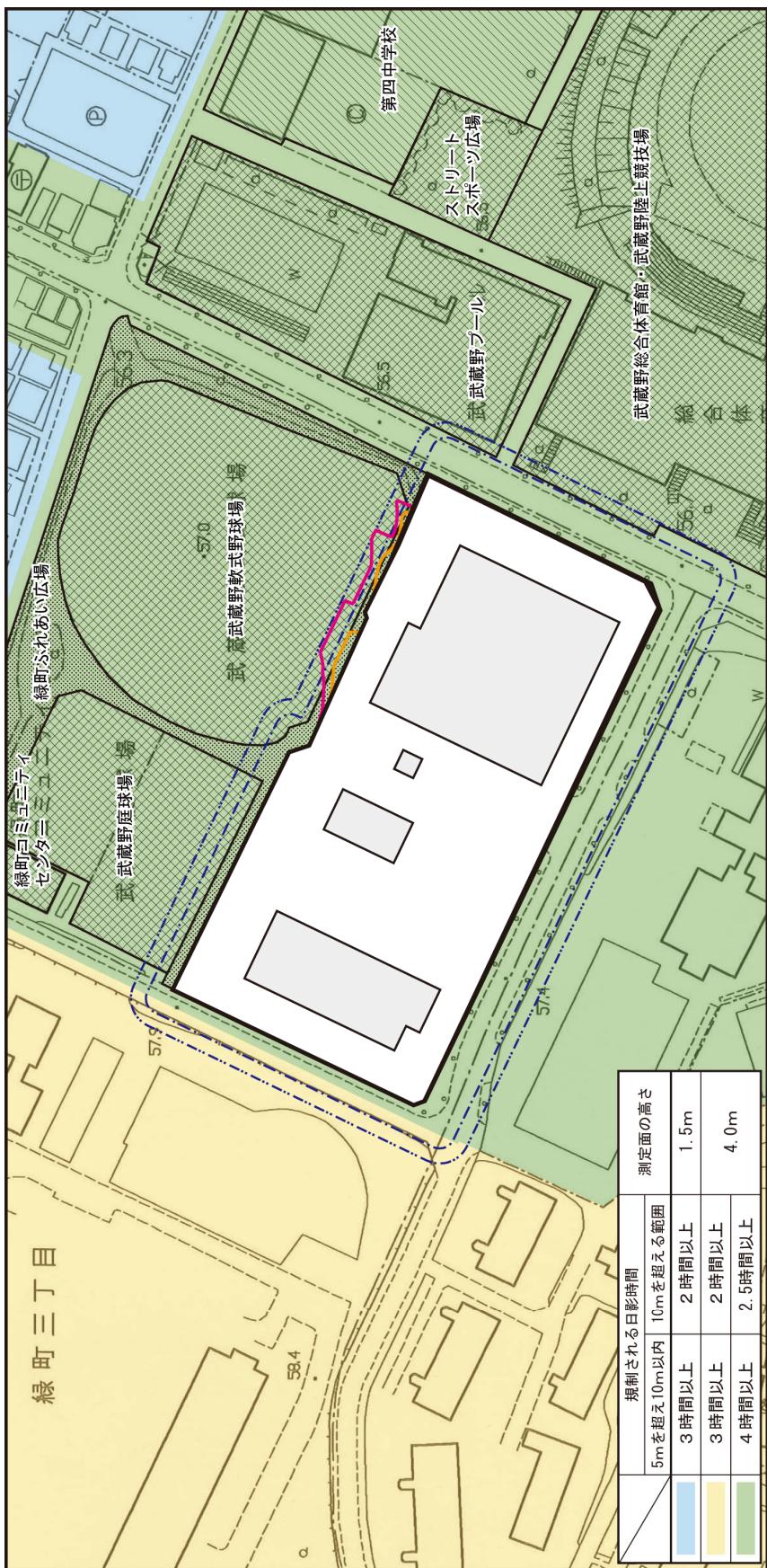


図 冬至日における等時間日影図の予測・評価結果

## 4-8 景観

### 1. 施設の存在

地域景観の特性の変化について、計画地周辺は事務所建築物、教育文化施設、スポーツ・工業施設、集合住宅、独立住宅等として利用されている地上1～3階建の低層建築物や地上4階建以上の中高層建築物がみられ、市街地の景観を形成しており、建替前から大きな変化はない。予測・評価結果のとおり、新施設は計画地内の東側に建設し、高さは建替前と同程度の約18mとした。また、煙突は建替前の物を再利用し、配置及び高さは変更しなかったことから、地域景観の特性の変化は小さいと考える。

主要な眺望地点の眺望の変化について、予測・評価結果のとおり、予測地点からの煙突の見え方に変化はない。また、計画地南側、東側及び北側の地点では、武蔵野クリーンセンターが見えるが、壁面に茶系のテラコッタルーバーを採用したことにより、計画地南側に隣接する市役所等の周辺建築物との調和が図られていることから、主要な調査地点の眺望に大きな変化はないと考える。

したがって、施設の存在により周辺環境に著しい影響を及ぼしていないと考える。

参考：着工前（冬）平成23年12月20日(火)撮影



予測・評価結果



事後調査結果（冬）令和2年12月16日（水）撮影



43

写真 景観の予測・評価結果及び事後調査結果（No.1：武藏野市役所前バス停付近）

参考：着工前（冬）平成23年12月20日(火)撮影



予測・評価結果



事後調査結果（冬）令和2年12月16日（水）撮影



写真 景観の予測・評価結果及び事後調査結果（No.2：クリーンセンター南側正門前）

参考：着工前（冬）平成23年12月20日(火)撮影



予測・評価結果



事後調査結果（冬）令和2年12月16日（水）撮影



写真 景観の予測・評価結果及び事後調査結果（No.3：武蔵野市役所北側出入口付近）

参考：着工前（冬）平成23年12月20日(火)撮影



予測・評価結果



事後調査結果（冬）令和2年12月16日（水）撮影



写真 景観の予測・評価結果及び事後調査結果（No.4：緑町パークタウンA7号棟付）

参考：着工前（冬）平成23年12月20日(火)撮影



予測・評価結果



事後調査結果（冬）令和2年12月16日（水）撮影



写真 景観の予測・評価結果及び事後調査結果（No.5：緑町ふれあい広場敷地内）

参考：着工前（冬）平成23年12月20日(火)撮影



予測・評価結果



事後調査結果（冬）令和2年12月16日（水）撮影



写真 景観の予測・評価結果及び事後調査結果（No.6：クリーンセンター北側住宅付近）

参考：着工前（冬）平成23年12月20日(火)撮影



予測・評価結果



事後調査結果（冬）令和2年12月16日（水）撮影



写真 景観の予測・評価結果及び事後調査結果（No.7：市営プールバス停付近）

参考：着工前（冬）平成23年12月20日(火)撮影



予測・評価結果



事後調査結果（冬）令和2年12月16日（水）撮影



写真 景観の予測・評価結果及び事後調査結果（No.8：武藏野総合体育館付近）



写真 景観の予測・評価結果及び事後調査結果（参考1：A7号棟地上）



写真 景観の予測・評価結果及び事後調査結果（参考2：A7号棟3階）

参考：着工前（冬）平成23年12月20日(火)撮影



予測・評価結果



事後調査結果（冬）令和2年12月16日（水）撮影



48

写真 景観の予測・評価結果及び事後調査結果（参考3：A7号棟5階）

参考：着工前（冬）平成23年12月20日(火)撮影



予測・評価結果



事後調査結果（冬）令和2年12月16日（水）撮影



写真 景観の予測・評価結果及び事後調査結果（参考4：B8号棟地上）

参考：着工前（冬）平成23年12月20日(火)撮影



予測・評価結果



事後調査結果（冬）令和2年12月16日（水）撮影



写真 景観の予測・評価結果及び事後調査結果（参考5：B8号棟6階）

参考：着工前（冬）平成23年12月20日(火)撮影



予測・評価結果



事後調査結果（冬）令和2年12月16日（水）撮影



写真 景観の予測・評価結果及び事後調査結果（参考6：B8号棟12階）

## 4-9 廃棄物等

### 1. 施設の稼働

焼却施設の焼却灰、飛灰の発生量は 2,798t/年であり、予測・評価結果（3,061t/年）を下回っていた。また、再資源化率は 100%であり、予測・評価結果（100%）と同値であった。

不燃・粗大ごみ処理施設の鉄類、アルミの発生量は 784t/年であり、予測・評価結果（721t/年）を上回ったものの、再資源化率は 100%であり、予測・評価結果（100%）と同値であった。

焼却施設の焼却灰、飛灰の発生量の事後調査結果が予測・評価結果を下回った理由としては、「武蔵野市一般廃棄物処理基本計画【令和元（2019）年度～令和10（2028）年度】」に基づき、ごみの減量化に資する施策を推進し、新施設における焼却量等の低減を図り、灰等の発生を抑制した等の環境保全措置の実施が要因として考えられる。また、不燃・粗大ごみ処理施設の鉄類、アルミの発生量の事後調査結果は予測・評価結果を上回ったものの、再資源化率は 100%であり、予測どおり再資源化を行った。

したがって、施設の稼働による廃棄物は適正に循環的な利用が行われていると考える。

表 予測・評価結果と事後調査結果の比較

施 設	品 目	予測・評価結果		事後調査結果	
		発生量 (t/年)	再資源化率 (%)	発生量 (t/年)	再資源化率 (%)
焼却施設	焼却灰、飛灰	3,061	100	2,798	100
不燃・粗大ごみ処理施設	鉄類、アルミ	721	100	784	100

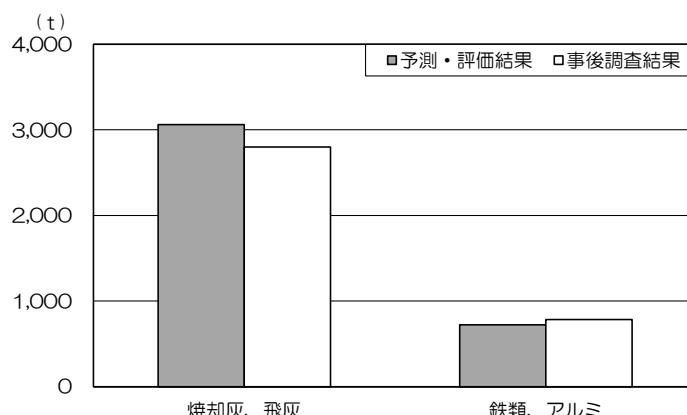


図 予測・評価結果と事後調査結果の比較（発生量）

## 4-10 温室効果ガス

### 1. 施設の稼働

温室効果ガスの排出量は 14,995tCO<sub>2</sub>/年であり、予測・評価結果（15,630tCO<sub>2</sub>/年）を下回っていた。温室効果ガスの削減量は 6,581tCO<sub>2</sub>/年、削減率は約 44%であり、予測・評価結果（削減量 4,850tCO<sub>2</sub>/年、削減率 31%）を上回っていた。

温室効果ガスの排出量の事後調査結果が予測・評価結果を下回った理由としては、電気の使用量、ごみの焼却量が予測条件を下回ったためである。

温室効果ガスの削減量及び削減率の事後調査結果が予測・評価結果を上回った理由としては、ごみ発電・ガスコジェネレーション発電の発電電力量が予測条件よりも多く、また、二酸化炭素の排出係数が予測条件よりも大きくなつたためである。二酸化炭素の排出係数が予測条件と比較して大きくなつたのは、東日本大震災後に火力発電の割合が高まつたことによるものである。

また、環境保全措置として、屋上緑化や壁面緑化を行い、建物の熱負荷低減に努めている。

したがつて、施設の稼働による温室効果ガスの排出の抑制等の措置を講ずるよう努めていると考える。

表 予測・評価結果と事後調査結果の比較

区分	CO <sub>2</sub> 排出量	
	予測・評価結果	事後調査結果
排出量	15,630 tCO <sub>2</sub> /年	14,995tCO <sub>2</sub> /年
削減量	4,850 tCO <sub>2</sub> /年	6,581tCO <sub>2</sub> /年
削減率（削減量/排出量）	約 31%	約 44%

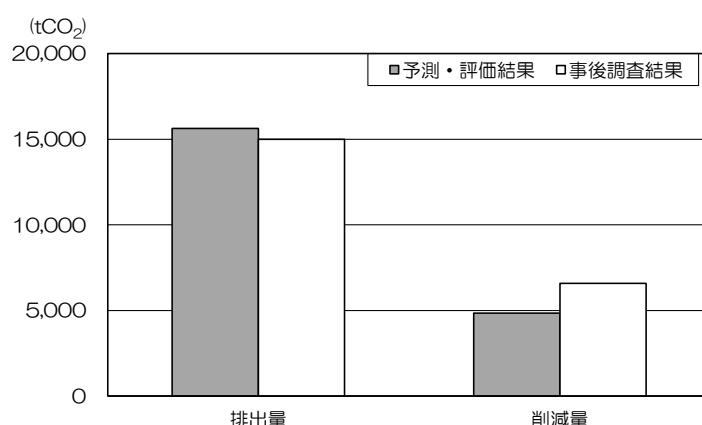


図 予測・評価結果と事後調査結果の比較

表 エネルギーの使用量、ごみの焼却量、発電量の予測条件と事後調査結果の比較

項目	予測条件	事後調査結果
エネルギーの使用量	電気の使用 5,420 MWh/年	1,894 MWh/年
	都市ガスの使用 22,832 m <sup>3</sup> /年	55,022 m <sup>3</sup> /年
ごみの焼却量	一般廃棄物中の合成繊維 915 t	817 t
	一般廃棄物中のプラスチック 4,683 t	4,178 t
	一般廃棄物の焼却 (連続燃焼式焼却施設) 32,340 t	28,852 t
発電量	ごみ発電・ガスコジェネレーション発電 12,637 MWh/年	13,451 MWh/年
	太陽光発電 61 MWh/年	10.6 MWh/年

表 排出係数の予測条件と事後調査結果の比較

項目	予測条件	事後調査結果
排出係数	電気の使用 0.382 tCO <sub>2</sub> /MWh	0.489 tCO <sub>2</sub> /MWh
	都市ガスの使用 2.277 tCO <sub>2</sub> /千 m <sup>3</sup>	2.244 tCO <sub>2</sub> /千 m <sup>3</sup>
	一般廃棄物中の合成繊維 2.29 tCO <sub>2</sub> /t	2.29 tCO <sub>2</sub> /t
	一般廃棄物中のプラスチック 2.77 tCO <sub>2</sub> /t	2.77 tCO <sub>2</sub> /t
	一般廃棄物の焼却 (連続燃焼式焼却施設) 0.00095 kgCH <sub>4</sub> /t	0.00095 kgCH <sub>4</sub> /t
	0.0567 kgN <sub>2</sub> O/t	0.0567 kgN <sub>2</sub> O/t
	ごみ発電・ガスコジェネレーション発電 0.382 tCO <sub>2</sub> /MWh	0.489 tCO <sub>2</sub> /MWh
	太陽光発電 0.382 tCO <sub>2</sub> /MWh	0.489 tCO <sub>2</sub> /MWh

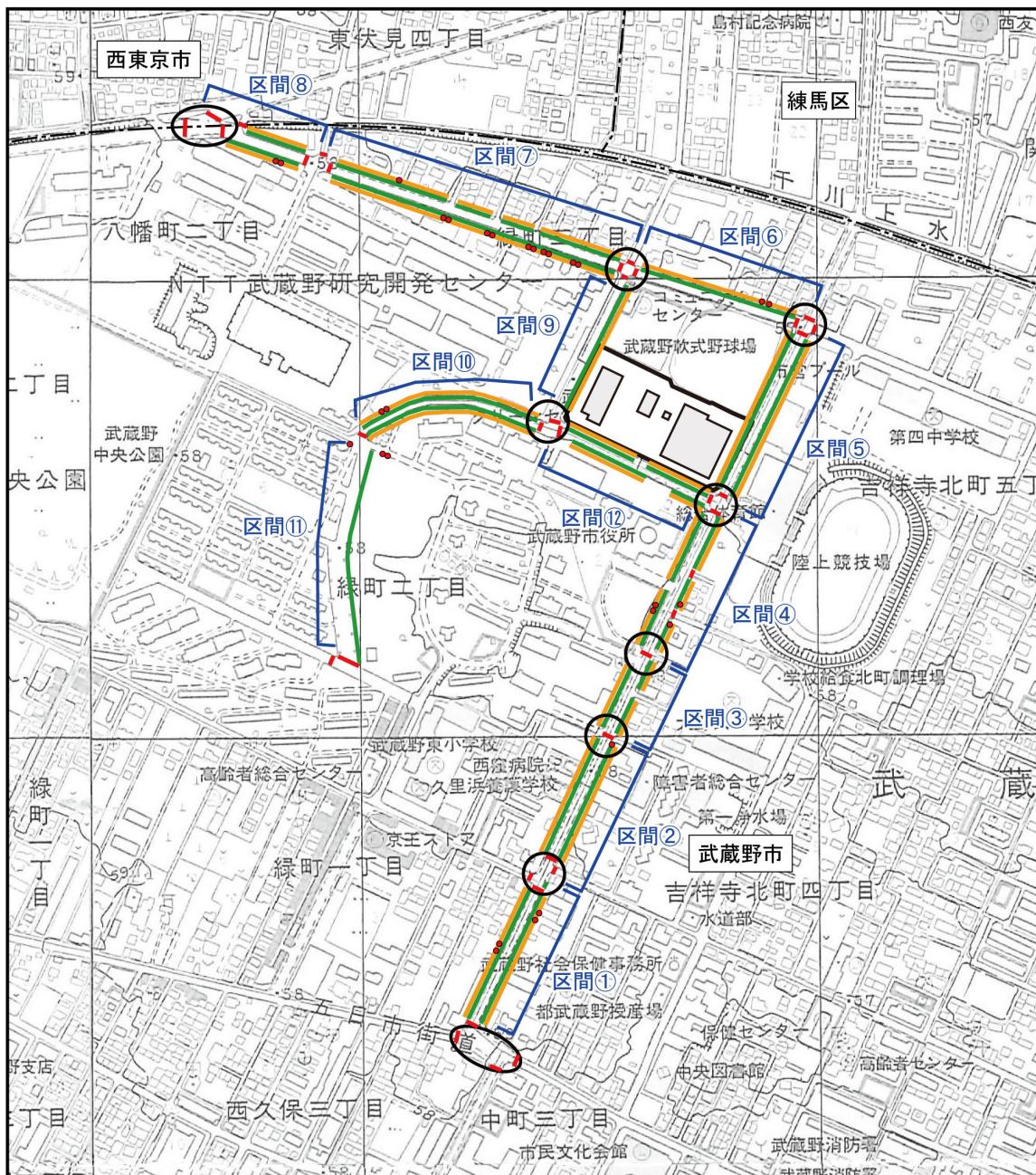
## 4-1-1 地域社会

### 1. 施設の稼働

事後調査の結果、計画地周辺のごみ収集車両の走行ルートには信号や横断歩道、防護柵（植樹等を含む）や段差歩道等の安全施設が整備されており、歩行者の安全が確保されていた。また、平成23年時点から信号や横断歩道、防護柵（植樹等を含む）や段差歩道の位置に変化はなく、一部でカーブミラーの新設・撤去が行われていた。

環境保全措置として、計画地内にごみ収集車両が待機するスペースの設置、車両出入口に交通誘導員を配置することで交通事故防止に努めており、可能な限り歩行者の交通安全を確保している。

したがって、ごみ収集車両等の走行により周辺環境に著しい影響を及ぼしていないと考える。



凡例

 計画地

 市区界

 : 信号交差点

 : 横断歩道

 : 防護柵（植栽等含む）

 : 段差歩道

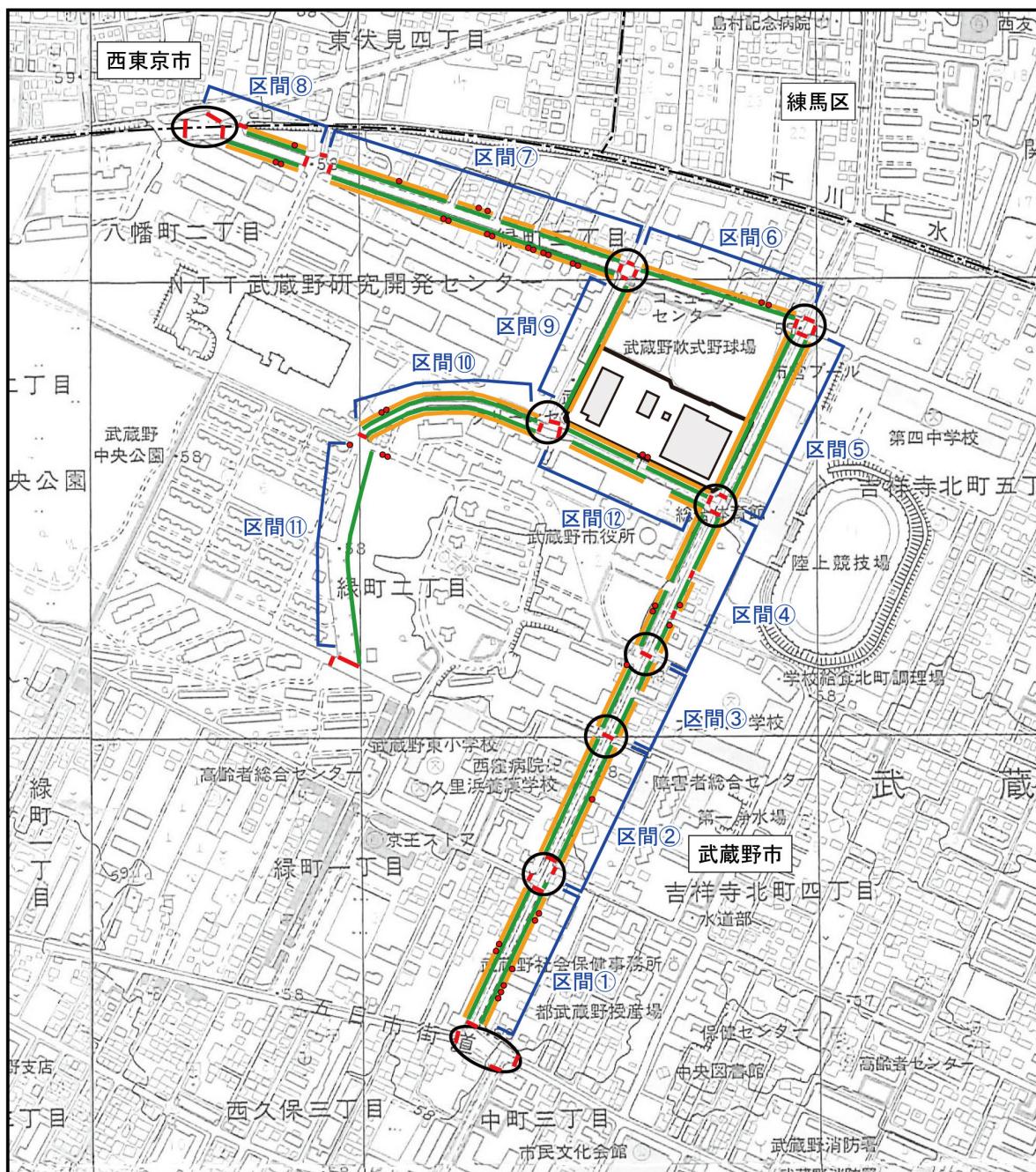
 : カーブミラー



0 100 200 300m

注) この地図は、国土地理院発行の1万分の1地形図  
(石神井、田無、吉祥寺、小金井)を使用し表示を拡大したものである。

図 安全対策等の実施状況の調査結果



凡例



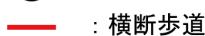
計画地



市区界



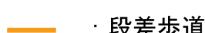
信号交差点



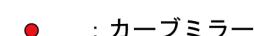
横断歩道



防護柵（植栽等含む）



段差歩道



カーブミラー



0 100 200 300m

注) この地図は、国土地理院発行の1万分の1地形図  
(石神井、田無、吉祥寺、小金井)を使用し表示を拡大したものである。

図 平成 23 年時点の安全対策等の実施状況

## 4-12 緑の量・質

### 1. 施設の存在

#### (1) 緑の量

緑化面積の合計は約5,094m<sup>2</sup>であり、予測・評価結果（約4,186m<sup>2</sup>）を上回っていた。接道部緑化長さは約308mであり、予測・評価結果（約363m）を下回っていたものの、緑化基準（緑化面積約2,437m<sup>2</sup>、接道部緑化長さ約291m）を上回っていた。

表 緑の量の予測・評価結果と事後調査結果の比較

項目	面積・長さ		緑化基準
	予測・評価結果	事後調査結果	
緑化面積	地上緑化面積 約 2,210m <sup>2</sup>	約 4,323m <sup>2</sup>	約 2,210m <sup>2</sup>
	屋上緑化面積 約 1,279m <sup>2</sup>	約 533m <sup>2</sup>	約 227m <sup>2</sup>
	壁面緑化面積 —	約 238m <sup>2</sup>	
合 計	約 4,186m <sup>2</sup>	約 5,094m <sup>2</sup>	約 2,437m <sup>2</sup>
接道部緑化長さ	約 363m	約 308m	約 291m

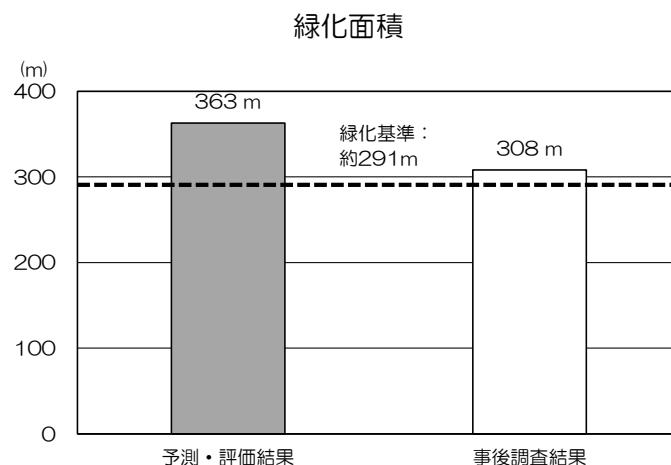
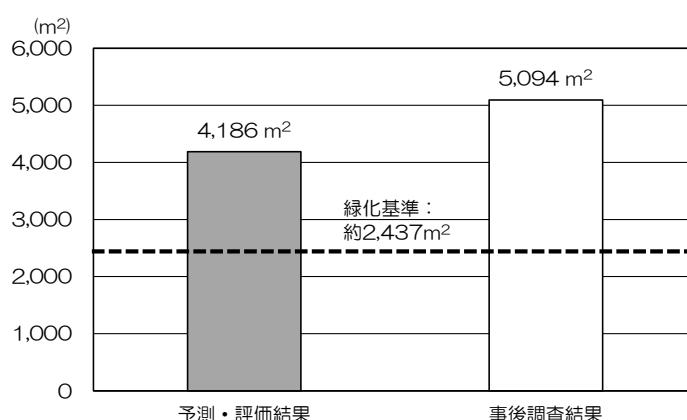


図 緑の量の予測・評価結果と事後調査結果の比較

#### (2) 緑の質

緑の質については、可能な限り伐採及び改変箇所をできる限り少なくし、既存植栽帯をできる限り保全活用したことや、伐採する樹木の代償として、潜在自然植生や周辺の現存植生を参考に、サクラやイロハモミジ等を新たに植栽した等の環境保全措置に努めた。

また、既存・新規別の樹木活力度の調査結果は、既存・新規樹木ともに活力度A・Bが大半を占めていた。なお、活力度C・Dとなったものは、植栽から時間が経過しておらず、十分に根系が活着していないこと、日照や水分の不足や過剰、多種との競合等が原因として考えられる。今後も衰退が進行するようであれば、病虫害の診断や土壤などの調査を行い、活力度低下の要因を把握したうえで対策を行うこととする。

したがって、施設の存在により周辺環境に著しい影響を及ぼしていないと考える。

表 既存・新規別の樹木活力度

種 別	区 分	単 位	活力度					
			A	B	C	D	枯 死	計
高中木	既存樹木	本	61	30	5	1	0	97
		%	62.9	30.9	5.2	1.0	0.0	100.0
	内移植樹木	本	6	4	0	0	0	10
		%	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	新規樹木	本	21	10	6	3	2	42
		%	50.0	23.8	14.3	7.1	4.8	100.0
	計	本	82	40	11	4	2	139
		%	59.1	29.5	7.4	2.7	1.3	100.0
低木・ 地被類	既存植栽	本	11	43	1	0	0	55
		%	20.0	78.2	1.8	0.0	0.0	100.0
	新規植栽	本	88	26	7	1	0	122
		%	72.1	21.3	5.7	0.8	0.0	100.0
	計	本	99	69	8	1	0	177
		%	55.9	39.0	4.5	0.6	0.0	100.0

注) 調査期間：令和2年8月4日(火)～6日(木)

5

事後調査の実施者及び受託者の氏名及び住所

## 5-1 事後調査の実施者の氏名及び住所

実施者の名称：武藏野市

代表者の氏名：武藏野市長 松下 玲子

住所：東京都武藏野市緑町二丁目2番28号

## 5-2 事後調査の受託者の氏名及び住所

受託者の名称：株式会社日建設計

代表者の氏名：代表取締役社長 大松 敦

主たる事務所の所在地：東京都千代田区飯田橋二丁目 18 番3号